

令和2年度
北秋田市教育委員会
点検・評価報告書

令和3年10月
北秋田市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度　：　令和２年度

＜構成内容＞

1	点検・評価の趣旨等	P 1
	(1) 点検・評価の趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 学識経験者の知見の活用	
	(5) 報告書の作成経緯	
	(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿	
2	教育委員会の会議開催状況	P 3
3	教育委員会の会議審議状況	P 3
	○令和２年度　教育委員会審議案件一覧	
	(1) 令和２年度　附議案件	
	(2) 令和２年度　承認案件	
	(3) 令和２年度　報告案件	
	(4) 令和２年度　その他案件	
4	総合教育会議開催状況	P 7
	○令和２年度　総合教育会議審議案件一覧	
	(1) 令和２年度　審議案件	
5	教育事務の点検評価書【総合点検・評価】	P 7
6	点検評価の基本的な考え方について	P 8
7	教育事務の点検評価書【総合点検・評価】	P 9
8	主要事務事業点検・評価票	P 1 0
	【点検・評価対象事務事業一覧】	
	【個別点検・評価票】	

1 点検・評価の趣旨等

(1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、令和2年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

(2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、令和2年度の事務・取組を対象として実施しています。

また、学校教育や社会教育に関することなど、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、第2次北秋田市総合計画（前期）の構成に基づいて重点施策の実績について点検・評価を行うものとしています。

(3) 点検・評価の方法

第2次北秋田市総合計画実施計画（H28～R2）に登載された事務事業を主として、①学校教育の充実、②生涯学習の充実、③芸術・文化の継承と振興、④スポーツの振興の4施策、44事務事業について、内部評価を実施しました。

(4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

◎点検・評価について意見を徴取した学識経験者

北秋田市教育委員会点検評価委員 濱田 純 氏

北秋田市教育委員会点検評価委員 佐々木 潤子 氏

(5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

6月24日 教育委員会6月定例会で、令和2年度点検・評価報告書（案）説明

7月29日 教育委員会7月定例会で、北秋田市教育委員会点検評価委員選任

教育委員会7月定例会で、令和2年度点検・評価報告書（案）審議

10月6日 点検評価会議を開催し、点検評価委員から意見聴取

10月28日 教育委員会10月定例会で、令和2年度点検・評価について議決 → 公表

(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

(令和3年3月31日現在)

職 名	氏 名	委員任期
教 育 長	佐 藤 昭 洋	平成29年5月1日 ～令和5年4月30日
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 正 俊	平成28年5月14日 ～令和6年5月13日
委 員	佐 藤 英 樹	令和元年5月14日 ～令和5年5月13日
委 員	藤 本 基 子	平成30年5月14日 ～令和4年5月13日
委 員	蒔 苗 隆	平成30年10月10日 ～令和3年5月13日

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２ 教育委員会の会議開催状況

教育委員会議については、原則として毎月１回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催しています。令和２年度は、合計で14回開催しました。

（１）教育委員会定例会・・・12回

（２）教育委員会臨時会・・・２回

No	開催日	案件数				所用時間	出席 委員数	備考
		議決	承認	報告	その他			
1	R2. 4. 30	1	1	1	2	98分	4	
2	R2. 5. 14	2	1			140分	4	臨時会
3	R2. 5. 27	4			2	96分	4	
4	R2. 6. 25	2	1	1	2	97分	4	
5	R2. 7. 16	3	1			53分	4	臨時会
6	R2. 7. 30	2		1	2	137分	4	
7	R2. 8. 27	4	2	1	2	148分	4	
8	R2. 9. 30				2	82分	4	
9	R2. 10. 29	1	1		2	78分	4	
10	R2. 11. 26	1			2	78分	4	
11	R2. 12. 24	3		1	2	140分	4	
12	R3. 1. 28	7			2	138分	4	
13	R3. 2. 26	1	3	1	2	228分	3	
14	R3. 3. 25	25	1	1	2	211分	4	
	計	56	11	7	24	1724分	55	

※出席委員数に教育長は含みません。

３ 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、令和２年度は合計で56件について審議しました。

<令和２年度 教育委員会審議案件一覧>

（１）令和２年度 附議案件

議案番号	件 名	提出年月日
R2年22	北秋田市公民館館長の委嘱について	R2. 4. 30
23	令和２年度北秋田市一般会計補正予算（第２号）	R2. 5. 14
24	統合小学校名の取扱いについて	R2. 5. 14
25	北秋田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R2. 5. 27
26	工事請負契約の締結の北秋田市議会提出について	R2. 5. 27
27	令和２年度北秋田市一般会計補正予算（第３号）について	R2. 5. 27
28	北秋田市教育委員会事務局職員に対する監督上の措置について	R2. 5. 27
29	北秋田市公民館条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R2. 6. 25

30	学校臨時休業対策費助成金交付要領の制定について	R2. 6. 25
31	統合小学校名の取扱いについて	R2. 7. 16
32	「令和元年議案第61号 北秋田市立小中学校条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について」の議決の取消しについて	R2. 7. 16
33	北秋田市立小中学校条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R2. 7. 16
34	北秋田市教育委員会点検評価委員の委嘱について	R2. 7. 30
35	令和元年度北秋田市教育委員会点検・評価報告書について	R2. 7. 30
36	北秋田市伊勢堂岱遺跡景観条例を廃止する条例の北秋田市議会提出について	R2. 8. 27
37	令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第7号）の北秋田市議会提出について	R2. 8. 27
38	北秋田市伊勢堂岱遺跡景観条例施行規則を廃止する規則の制定について	R2. 8. 27
39	北秋田市伊勢堂岱遺跡景観審議会規則を廃止する規則の制定について	R2. 8. 27
40	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	R2. 10. 29
41	令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第9号）の北秋田市議会提出について	R2. 11. 26
42	北秋田市教育委員会が定める申請書等の様式における押印の取扱い等に関する規則の制定について	R2. 12. 24
43	北秋田市小中学校修学旅行キャンセル料等補助金交付要領の制定について	R2. 12. 24
44	通学区域の指定校変更について	R2. 12. 24
R3年1	北秋田市放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R3. 1. 28
2	北秋田市立小中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 1. 28
3	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 1. 28
4	北秋田市立学校遠距離通学児童生徒スクールバス及びスクールタクシー利用要綱の一部を改正する訓令の制定について	R3. 1. 28
5	北秋田市立学校児童生徒遠距離通学費補助金交付要綱の一部を改正する訓令の制定について	R3. 1. 28
6	北秋田市文化財の指定について	R3. 1. 28
7	服務監督者としての対応について	R3. 1. 28
8	県費負担教職員の内申について	R3. 2. 26
9	北秋田市教育委員会が定める申請書等の様式における押印等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 3. 25
10	北秋田市立学校遠距離通学児童生徒スクールバス及びスクールタクシー利用要綱の一部を改正する訓令の制定について	R3. 3. 25
11	北秋田市教育委員会後援等の名義使用に関する事務取扱要綱の一部を改正する告示の制定について	R3. 3. 25
12	北秋田市招致外国青年の任用に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 3. 25
13	北秋田市公民館管理規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 3. 25
14	北秋田市民ふれあいプラザ管理規則の一部を改正する規則の制定について	R3. 3. 25

15	あきたリフレッシュ学園管理運営要綱の一部を改正する訓令の制定について	R3. 3. 25
16	北秋田市文化及び文化財保護継承事業補助金交付要領の一部を改正する告示の制定について	R3. 3. 25
17	北秋田市指定文化財保存整備事業補助金交付要綱の制定について	R3. 3. 25
18	第2次北秋田市学校教育ビジョンの策定について	R3. 3. 25
19	北秋田市スポーツ推進計画の策定について	R3. 3. 25
20	北秋田市公民館館長の辞職について	R3. 3. 25
21	北秋田市公民館館長の任命について	R3. 3. 25
22	北秋田市公民館主事の委嘱について	R3. 3. 25
23	北秋田市社会教育委員の委嘱について	R3. 3. 25
24	北秋田市公民館運営審議会委員の委嘱について	R3. 3. 25
25	北秋田市青少年問題協議会委員の委嘱について	R3. 3. 25
26	北秋田市生涯学習奨励員の委嘱について	R3. 3. 25
27	北秋田市文化財保護審議会委員の委嘱について	R3. 3. 25
28	北秋田市文化会館運営委員会委員の委嘱について	R3. 3. 25
29	北秋田市図書館協議会委員の任命について	R3. 3. 25
30	北秋田市浜辺の歌音楽館運営審議会委員の委嘱について	R3. 3. 25
31	北秋田市スポーツ推進審議会委員の任命について	R3. 3. 25
32	北秋田市スポーツ推進委員の委嘱について	R3. 3. 25
33	服務監督者としての対応について	R3. 3. 25

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

(2) 令和2年度 承認案件

承認番号	件 名	提出年月日
1	専決処分の承認を求めることについて（北秋田市公民館館長の任命について）	R2. 4. 30
2	専決処分の承認を求めることについて（令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第6号））	R2. 5. 14
3	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第4号）の北秋田市議会提出について）	R2. 6. 25
4	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第5号）の北秋田市議会提出について）	R2. 7. 16
5	専決処分の承認を求めることについて（財産の取得の北秋田市議会提出について）	R2. 8. 27
6	専決処分の承認を求めることについて（令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第6号）の北秋田市議会提出について）	R2. 8. 27
7	専決処分の承認を求めることについて（教科用図書の採択）	R2. 10. 29
8	専決処分の承認を求めることについて（専決第1号 令和3年度北秋田市一般会計予算の北秋田市議会提出について）	R3. 2. 26
9	専決処分の承認を求めることについて（専決第2号 令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第12号）の北秋田市議会提出について）	R3. 2. 26

10	専決処分の承認を求めることについて（専決第4号 令和2年度北秋田市一般会計補正予算（第13号）の北秋田市議会提出について）	R3. 2. 26
11	専決処分の承認を求めることについて（専決第5号 教育委員会事務局教育次長及び課長の任免について）	R3. 3. 25

※承認番号は、暦年による一連番号を記載。

（3）令和2年度 報告案件

番号	件 名	提出年月日
R2年2	専決処理の報告について（北秋田市公民館主事の任命について）	R2. 4. 30
3	専決処理の報告について（公文書の開示について）	R2. 6. 25
4	専決処理の報告について（北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R2. 7. 30
5	専決処理の報告について（公文書の開示について）	R2. 8. 27
6	専決処理の報告について（公文書の開示について）	R2. 12. 24
R3年1	専決処理の報告について（専決第3号 公文書の開示について）	R3. 2. 26
2	専決処理の報告について（専決第6号 北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R3. 3. 25

（4）令和2年度 その他案件

番号	件 名	提出年月日
1	教育長報告	R2. 4. 30
2	各課長所管報告	R2. 4. 30
3	教育長報告	R2. 5. 27
4	各課長所管報告	R2. 5. 27
5	教育長報告	R2. 6. 25
6	各課長所管報告	R2. 6. 25
7	教育長報告	R2. 7. 30
8	各課長所管報告	R2. 7. 30
9	教育長報告	R2. 8. 27
10	各課長所管報告	R2. 8. 27
11	教育長報告	R2. 9. 30
12	各課長所管報告	R2. 9. 30
13	教育長報告	R2. 10. 29
14	各課長所管報告	R2. 10. 29
15	教育長報告	R2. 11. 26
16	各課長所管報告	R2. 11. 26
17	教育長報告	R2. 12. 24
18	各課長所管報告	R2. 12. 24
19	教育長報告	R3. 1. 28
20	各課長所管報告	R3. 1. 28
21	教育長報告	R3. 2. 26
22	各課長所管報告	R3. 2. 26
23	教育長報告	R3. 3. 25
24	各課長所管報告	R3. 3. 25

4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置しています。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体 の保護等緊急の場合に講ずべき措置等について協議・調整を行います。令和2年度は2回開催しました。

＜令和2年度 総合教育会議審議案件一覧＞

（1）令和2年度 審議案件

番号	件 名	年月日
1	令和2年度主な教育施策について	R2. 5. 27
2	令和2年度主要教育施策の実施状況（上半期）及び令和3年度における教育に関する重点施策について	R2. 11. 28

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

令和2年度における教育委員会の当初予算は25億2,021万6千円でありましたが、5億1,161万7千円の増額補正があり、予算合計が30億3,188万3千円となっています。これは、前年度予算と比較して6億6,745万2千円増加、一般会計に占める教育費の割合は約10.2%で、前年度に比べ約0.4%減少しています。

会議については、教育委員会を14回、総合教育会議を2回開催しました。市長と教育委員が一堂に会し、北秋田市における「学校教育」「社会教育」「スポーツ」という教育全般にわたり、教育理念や方針、施策や事業等について有意義な協議、意見交換が行われました。

令和2年度における教育委員会の主要施策についての個別点検・評価について、次頁以降に示している44事業を対象として、「アウトカム型」「アウトプット型」「ロードマップ型」「例年実施型」「緊急対策型」の5つの類型で57の評価指標を設定しました。

目標値を設定した「アウトカム型」「アウトプット型」は29指標の内、浜辺の歌音楽館の利用人数のみが目標値を達成したほか、6指標で一部達成し、22指標が達成できませんでした。

事業進捗を年次で示した「ロードマップ型」は5指標で、計画どおり進捗しています。

目標値の設定が馴染まない「例年実施型」が23指標で、「緊急対策型」は新型コロナウイルス感染対策事業で、緊急事案に対して迅速な対応をしました。

総じて、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止、延期または縮小などの見直しがあり、多くの事業で目標値を達成することができませんでしたが、文化祭開催事業では、文化祭は中止としましたが、代替事業として「みんなの作品展」を開催したところ、展示物の出展数が前年の文化祭より増加するなどの成果がありました。

点検評価を終え、学識経験者からは次のような御意見をいただきました。

「評価指標が見やすくなり、内容がわかりやすく、次のビジョンをすぐ連想できるようになりました。またすべての事業、予算規模は小さいですが、それ以上の効果を上げている印象があります。その都度都度の工夫が事業の継続に繋がることが大事ですので、市の高齢化率の高さなど、その影響を見越した評価目標を立てていけないといけませんが、多方面からのバックアップもなかなかない中で、効果的な事業を展開していると思います。」

「点検評価の評価指標が一新されて、コロナ禍という予期せぬ事態でも、わかりやすい評価になっています。すべての事業に関して非常によく取り組んでいて、緊急の対策についても臨機応変に対応されていることも評価できると思います。今後も人口減少が懸念される中で、事業をコンパクトかつ充実したものにするのを期待します。」

いただいた御意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参ります。

令和3年10月

北秋田市教育委員会

6 点検評価の基本的な考え方について

本市では、平成27年12月に「第2次北秋田市総合計画（基本構想・前期基本計画）」を策定し、本市が目指す教育の姿の実現に向け、平成28年度から令和2年度までの5年間の施策の方向性を示しました。

第2次計画では、取り組みの基本的な構成を「学校教育の充実」、「生涯学習の充実」、「芸術・文化の継承と振興」、「スポーツの振興」の4つに分類するとともに、各施策の目標達成に向けた取り組みとして、施策の方向性を以下のとおり示しております。

令和2年度分の施策の実績については、第2次北秋田市総合計画の構成に基づき評価することとし、この報告書では、4つの基本的な構成ごとに、各施策の実績について点検・評価を行うものとします。

〔第2次北秋田市総合計画の構成〕

学校教育の充実	生涯学習の充実
学校の適正配置 基礎学力の定着と学力向上 体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実 教育環境の充実	地域づくりにつながる社会教育 北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化 学びの場・発表の場の提供 児童・生徒の学校外の学習・交流推進
芸術・文化の継承と振興	スポーツの振興
伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進 芸術、文化活動の支援 有形文化財の保存と活用 無形文化財の保護と継承	スポーツ環境の充実 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 競技スポーツの向上

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図ることとしており、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定しました。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行いました。

〔評価指標についての基本的な考え方〕

1 アウトカム型 (目標値設定あり)	事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの 【例】 学力検査結果、利用者アンケート結果
2 アウトプット型 (目標値設定あり)	事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの 【例】 入館者数、登録数
3 ロードマップ型 (目標値設定なし)	計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの 【例】 施設整備事業、タブレット端末整備事業
4 例年実施型 (目標値設定なし)	毎年同じ内容で着実に実施しているもの 【例】 就学援助事業、〇〇活動の支援事業
5 緊急対策型 (目標値設定なし)	緊急的に実施したもの 【例】 感染症緊急対策事業、災害対策事業

7 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

◎凡例

本市教育委員会の事務を、平成27年12月に策定した「第2次北秋田市総合計画（基本構想・前期基本計画）」に基づき、4つの施策－施策の方向性－事業の体系とし、施策の方向及び事業の単位において点検・評価を実施しました。

また、事業の単位において学識経験者から聴取した意見を掲載しました。

◎評価指標の表記について

計画の進行管理にあたっては、評価指標を設定することで効果的な促進を図り、各事業の内容や期待される効果などに応じて、次の5つの類型の評価指標のいずれかを設定することとします。

なお、評価指標については、各事業の達成度を評価する際の参考指標という位置付けとし、評価については各事業の進捗状況などを踏まえ総合的に行うこととします。

①アウトカム型・・・事業を通じて直接的な効果や理解度などが測定できるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトカム** ◆実績

●●と答えた児童生徒の割合
●%

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●%	●%	●%			

②アウトプット型・・・事業の活動や事業結果が定量的に示せるもの（目標値設定あり）

◆評価指標 **アウトプット** ◆実績

●●施設利用者数
●名

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●名	●名	●名			

③ロードマップ型・・・計画期間内の事業計画が決まっており、事業の進捗が年次で示せるもの

◆評価指標及び実績 **ロードマップ**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●●事業準備	●●事業実施				
●●調査完了					

←事業計画に対する
実績(下段)

④例年実施型・・・毎年同じ内容で着実に実施しているもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **例年実施**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
●●件	●●件	●●件			

←事業計画に対する実績

⑤緊急対策型・・・緊急的に実施したもの（目標値設定なし）

◆評価指標及び実績 **緊急対策**

H30	R 1	R2	R 3	R 4	R 5
		●●件			

←事業計画に対する実績

8 主要事務事業点検・評価票

【点検・評価対象事務事業一覧】

施策名	施策の方向性
学校教育の充実	①学校の適正配置 ②基礎学力の定着と学力向上 ③体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実 ④教育環境の充実

No	事務事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業	例年実施/アウトプット
2	統合鷹巣中央南小学校大規模改造事業	ロードマップ
3	学校給食事業	アウトプット

No	事務事業名	【学校教育課】
4	遠距離通学事業	例年実施
5	教育センター事業	アウトカム
6	外国青年招致事業	アウトカム
7	総合学習補助事業	例年実施
8	小・中学校パソコン導入事業（GIGAスクール構想）	ロードマップ
9	学校生活サポート員配置事業	例年実施
10	不登校児童生徒対策事業	例年実施
11	小・中学校校務支援システム導入事業	アウトカム
12	新型コロナウイルス感染症対策事業	緊急対策

施策名	施策の方向性
生涯学習の充実 【重点プロジェクト】	①地域づくりにつながる社会教育 ②北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化 ③学びの場・発表の場の提供 ④児童・生徒の学校外の学習・交流促進

No	事務事業名	【生涯学習課】
13	新成人事業	例年実施
14	日本語教室開催事業	例年実施
15	青少年育成事業	例年実施
16	花いっぱい運動推進事業	例年実施
17	地域学校協働本部事業	アウトプット
18	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	アウトプット
19	高齢者教育事業	アウトプット
20	公民館講座開設事業	アウトプット/アウトカム
21	公民館管理事業	例年実施
22	放課後児童健全育成事業	例年実施
23	放課後子ども教室推進事業	アウトプット
24	家庭教育支援推進事業	例年実施

施策名	施策の方向性
芸術・文化の継承と振興	①伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進 ②芸術、文化活動の支援 ③有形文化財の保存と活用 ④無形文化財の保護と継承

No	事務事業名	【生涯学習課】
25	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	ロードマップ
26	縄文まつり開催事業	アウトプット/アウトカム
27	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業	アウトプット/アウトカム
28	図書館事業	アウトプット/例年実施
29	文化会館運営事業	アウトプット
30	文化会館自主事業	アウトプット
31	みちのく子供風土記館管理事業	アウトプット/例年実施
32	浜辺の歌音楽館運営事業	アウトプット/例年実施
33	文化祭開催事業	アウトプット
34	文化財保護事業	例年実施
35	日本遺産事業	ロードマップ
36	民俗芸能大会事業	アウトプット/例年実施
37	方言保存継承事業	ロードマップ

施策名	施策の方向性
スポーツの振興	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事務事業名	【スポーツ振興課】
38	北秋田市民プール管理運営事業	例年実施
39	薬師山スキー場管理運営事業	例年実施
40	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業	アウトプット
41	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	アウトプット
42	北秋田市スキー大会等補助事業	アウトプット
43	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	アウトプット
44	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業	アウトプット

1	施策名	学校教育の充実 施策の方向性 教育環境の充実					総務課	
事業名	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業					決算額 7,319 千円		
◆事業の目的 あきたリフレッシュ学園 学校や日常生活に悩み、疲れた小・中学生に大自然の中で心と体のリフレッシュを図る場と機会を提供する。 教育留学事業 秋田の探求型授業や体験活動等を目的に来県する教育留学を推進することで、秋田の魅力を全国に発信し、関係・交流人口の増加につなげる。			◆事業概要 あきたリフレッシュ学園 県派遣の社会教育主事と教員OBの指導員が、個々に応じた学習と自然体験をコーディネートし、社会性や協調性を育む。 教育留学事業 【県委託事業】留学生が滞在期間を自由に決めたり、内容を選んだりできる「オーダーメイド」型留学。学童研修センターを生活拠点として、市内の小中学校に通って秋田の探求型授業を実践する。教育留学が本務校の出席扱いができることから、数日間の体験型から長期滞在型、定住型へとステップアップすることができる。					
◆評価指標及び実績								
あきたリフレッシュ学園事業			例年実施					
			実績	H28	H29	H30	R1	R2
			実人数	17人	16人	20人	11人	13人
			実人数(市内)	10人	8人	9人	8人	7人
			延べ人数	975人	964人	891人	676人	270人
教育留学事業			アウトプット					
評価指標			実績	H28	H29	H30	R1	R2
			実人数	10人	13人	11人	11人	0人
			延べ人数	319人	630人	1065人	818人	0人
長期教育留学生の延べ人数			参考	短期留学の参加者数				
			夏期	25人	32人	33人	19人	0人
708人(過去4年間の平均)以上			冬期	16人	33人	28人	24人	0人
			計	41人	65人	61人	43人	0人
◆令和2年度の実施状況								
【あきたリフレッシュ学園】 体験活動を通して学校復帰を目指す不登校対策のあきたリフレッシュ学園事業では登山、サイクリング、筏下り等の自尊感情を高める活動や、農園活動で収穫の喜びと、家庭に持ち帰ることで、感謝されるなど、自己有用感を高める活動を実施したことで、健康的な生活を取り戻す子どもみられた。新型コロナウイルス感染症拡大防止から体験活動の内容が制限されたが、感染症対策を講じて実施した。								
【教育留学】 教育留学事業については年間を通して受け入れる長期留学及び夏休み、冬休みを利用して行う短期留学ともに新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い県教育庁と協議のうえ中止した。留学の実施は困難であったが、総合政策課移住・定住支援室と連携しながら、オンラインツアーを通じて当市が行う教育留学のPRを積極的に行うことが出来た。								
◆自己評価 あきたリフレッシュ学園事業は、例年実施型として評価指標を設定していない。不登校の子供が社会との接点がないければ、将来「ひきこもり」に陥る可能性がある。リフレッシュ学園は社会との大事な接点となっていることから事業の意義は大きい。 教育留学事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止したため評価指標を達成できなかったが、他課所管の移住体験オンラインツアーと連携することで北秋田市で行う教育留学の魅力を発信した。								
◆今後の方向性 あきたリフレッシュ学園事業は、体験活動を通じて自尊感情や自己有用感を高めるための支援を続ける。 教育留学事業は、県の委託事業を継続して、秋田の魅力発信、関係人口の増加につなげる事業を展開する。								
◆評価委員の意見 活動が制限される中で、工夫して事業を実施しており、評価できる。								

2	学校教育の充実					総務課	
	施策名	施策の方向性 学校の適正配置					
事業名	統合鷹巣中央南小学校大規模改造事業						決算額 567,544 千円
◆事業の目的 北秋田市小中学校 適正規模・配置再編プランに沿った校舎の整備充実を図り、施設の耐久性を確保する。			◆事業概要 旧鷹巣南中学校校舎を統合小学校用に整備する。 R1 調査・設計 R2 施工 R3 外構				
◆評価指標及び実績		ロードマップ					
		H29	H30	R1	R2	R3	R4
				大規模改造事業			
				調査・設計	施工	外構	
◆令和2年度の実施状況 校舎、体育館、プールの大規模改造工事を実施							
工事の概要						事業費	
校舎、体育館、プールの大規模改造工事(建築工事・機械設備工事・電気設備工事)						567,544 千円	
・校 舎:鉄筋コンクリート造3階建 3,494㎡ ・体育館:鉄骨造2階建 1,260㎡ (建築工事)屋上改修、外装改修、内部改修、外関連工事一式 (機械設備工事)空調設備、衛生設備、給排水設備工事、外関連工事一式 (電気設備工事)校舎、屋体電気設備工事一式							
・プール 686㎡ 付属屋 110㎡ 計 796㎡ (解体工事)既存プール解体 (建築工事、機械設備工事、電気設備工事)							
◆自己評価 大規模改造工事により、必要な施設整備が実施され、計画どおり令和3年4月1日に統合小学校を開校することができた。							
◆今後の方向性 令和3年度 外構整備工事として遊具設置等を実施する。 令和3年度の外構整備工事の完了をもって本事業は終了する。							
◆評価委員の意見 必要不可欠な設備について、整備計画を基に、今後も取り組まれない。							

3	学校教育の充実					総務課	
	施策名	施策の方向性 教育環境の充実					
事業名	学校給食事業					決算額 267,046 千円	
◆事業の目的 学校給食の提供			◆事業概要 市内小学校10校、中学校4校への給食提供と比内支援学校たかのす校への給食提供を受託している。				
◆評価指標及び実績		アウトプット					
評価指標 給食食材使用量の地場産率 41品目 秋田県産 80% 41品目 北秋田市産 25% 15品目 秋田県平均比+3%		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		総食数	2,274食	2,228食	2,233食	2,132食	2,048食
		鷹巣北部	940食	921食	931食	918食	916食
		鷹巣南部	443食	441食	442食	414食	350食
		もりよし	891食	866食	860食	800食	782食
		秋田県産	80.2%	76.2%	77.9%	80.0%	81.1%
		北秋田市産	22.7%	21.9%	25.0%	22.6%	24.8%
		県平均比	+8.1%	+3.3%	+2.2%	+1.6%	+11.6%
		※食数は1日あたりの食数					
		◆令和2年度の実施状況 鷹巣南中学校が鷹巣中学校に統合になったことによって、北部給食センターの食数が多くなり、南部給食センターの食数が少なくなることから、鷹巣東小学校を北部給食センターから南部給食センターに変更した。 北部給食センター残飯回収用軽トラック更新 938,300円 北部給食センター蒸気回転釜更新 2,035,000円 南部給食センターパススルー冷蔵庫更新 1,375,000円 地場産食材の活用 秋田応援メニューと題して、コロナ禍で販売が落ち込んだ県内産食材を使用した献立を多く取り入れたほか、地元食材への理解を深めるために、生産者とともに食育指導を実施した。 食物アレルギー対策 児童生徒(新入学児童含む)の保護者と、医師の指示書を基に面談をして対応を確認。 対応方法 ・代替食 ・除去食 ・代替食(弁当)を持参。 毎年、各学校の給食担当職員と給食センター職員で給食担当者会議を開催し、食物アレルギー対応マニュアルを確認。					
◆自己評価 給食メニューに秋田県応援メニューと題して地場産食材の使用に努めたことで、地場産率の目標を概ね達成することができた。また、生産者を招いての食育指導で生産者の声を聞くことで、子供たちが、地場産食材に興味を持つ機会を作ることが出来た。 給食食材使用量の地場産率について、41品目のうち秋田県産は評価指標80%に対して81.1%であり達成率101.37%であったが、北秋田市産は評価指標25%に対して24.8%と達成率は99.2%と達成できていない。							
◆今後の方向性 安心・安全な給食提供のため、日々の衛生管理を徹底する。 納入業者地場産食材をより多く使用した給食提供を心がける。 鷹巣北部学校給食センターの建物の老朽化により、学校給食の衛生基準及び多様なアレルギーを持った児童・生徒に対し十分な対応ができていないことがあるため、鷹巣地区の給食センターの更新を考える時期に来ている。							
◆評価委員の意見 食育関連の指導など、工夫を凝らして評価できる。 継続実施を図られたい。							

4	学校教育の充実		学校教育課	
	施策名	施策の方向性 学校の適正配置		
事業名	遠距離通学事業		決算額 68,390 千円	
◆事業の目的 スクールバス等の運行により、遠距離児童生徒の通学の安全と保護者の負担軽減を図り、平等な就学の機会を確保する。また、公共交通機関の利用可能な児童生徒には、定期券を配布することで経済的な軽減を図ることを目的とする。		◆事業概要 通学距離が小学生で片道4km中学生で片道6km以上となる児童生徒を対象とし、スクールバスやスクールタクシーを運行し通学を支援。また公共交通機関の利用が可能な児童生徒には定期券を配布。		
◆評価指標及び実績		例年実施		
スクールバス運行事業				
実績		H30	R1	R2
小学校 児童数		1,156人	1,115人	1,075人
中学校 生徒数		668人	624人	602人
対象小学生		210人	202人	200人
対象中学生		160人	142人	171人
対象小学生%		18.2%	18.1%	18.6%
対象中学生%		24.0%	22.8%	28.4%
遠距離通学費補助事業				
実績		H30	R1	R2
鷹巣南小学校学区		2人	2人	4人
前田小学校学区		4人	4人	3人
◆令和2年度の実施状況 スクールバス運行事業においては、直営スクールバス11路線、委託スクールバス2路線、スクールタクシー5路線を運行し、対象児童生徒371名の安全な通学に努めた。令和2年度からは鷹巣南中学校が鷹巣中学校に統合したことにより対象となる中学生が増えている。また、遠距離通学費補助については鷹巣南小学校学区にある湯ノ岱線、前田小学校学区にある根森田線を利用可能な対象児童へバス定期券を補助した。				
◆自己評価 事故なく安全安心な運行を図ることが出来た。				
◆今後の方向性 安全安心な運行を図るため、必要な車両の台数を確保していく。また、安全運行の徹底を図るため運転手会議を開催し、運行時間の妥当性、運行ルートの安全性を確認していく。 一方で、学校の統合により車両台数が増えることでバス運転手の確保が課題である。				
◆評価委員の意見 児童生徒の安全性とバス運転手の確保に、引き続き努められたい。				

5	学校教育の充実			学校教育課																												
	施策名	施策の方向性 基礎学力の定着と学力向上/教育環境の充実																														
事業名	教育センター事業			決算額 2,181 千円																												
◆事業の目的 小・中学校の教職員研修を計画・実践し、北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」の育成に努めることを目的とする。		◆事業概要 教育センターの組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、教職員の研修に取り組む。																														
◆評価指標及び実績		アウトカム																														
評価指標 授業研究会に関する教職員アンケート(4段階評価)において、「十分満足」と「概ね満足」の割合の合計が90%以上		<table><tr><td>実績</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>小学校</td><td>98.0%</td><td>98.3%</td><td>97.0%</td></tr><tr><td>中学校</td><td>91.0%</td><td>100.0%</td><td>99.0%</td></tr><tr><td>平均</td><td>94.5%</td><td>99.2%</td><td>98.0%</td></tr></table>			実績	H30	R1	R2	小学校	98.0%	98.3%	97.0%	中学校	91.0%	100.0%	99.0%	平均	94.5%	99.2%	98.0%												
実績	H30	R1	R2																													
小学校	98.0%	98.3%	97.0%																													
中学校	91.0%	100.0%	99.0%																													
平均	94.5%	99.2%	98.0%																													
県学習状況調査(児童生徒質問紙調査)における質問項目「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」について、「あてはまる」の割合が県平均を上回る。		<table><tr><td>小4</td><td>+4.8%</td><td>+5.7%</td><td>-3.2%</td></tr><tr><td>小5</td><td>+6.6%</td><td>-2.8%</td><td>+6.9%</td></tr><tr><td>小6</td><td>+3.8%</td><td>+9.5%</td><td>-3.6%</td></tr><tr><td>児童平均</td><td>+5.1%</td><td>+4.1%</td><td>±0%</td></tr><tr><td>中1</td><td>+2.9%</td><td>+0.3%</td><td>+6.0%</td></tr><tr><td>中2</td><td>+2.0%</td><td>+3.5%</td><td>+3.4%</td></tr><tr><td>生徒平均</td><td>+2.5%</td><td>+1.9%</td><td>+4.7%</td></tr></table>			小4	+4.8%	+5.7%	-3.2%	小5	+6.6%	-2.8%	+6.9%	小6	+3.8%	+9.5%	-3.6%	児童平均	+5.1%	+4.1%	±0%	中1	+2.9%	+0.3%	+6.0%	中2	+2.0%	+3.5%	+3.4%	生徒平均	+2.5%	+1.9%	+4.7%
小4	+4.8%	+5.7%	-3.2%																													
小5	+6.6%	-2.8%	+6.9%																													
小6	+3.8%	+9.5%	-3.6%																													
児童平均	+5.1%	+4.1%	±0%																													
中1	+2.9%	+0.3%	+6.0%																													
中2	+2.0%	+3.5%	+3.4%																													
生徒平均	+2.5%	+1.9%	+4.7%																													
◆令和2年度の実施状況 ・児童生徒の基礎学力の定着と学力向上を目指し、教職員の授業力向上を図るために授業研究会を実施した。研究会当日は、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業提示と熱心な協議が行われた。また、自校の取組や実践例の情報交換を行い、指導法の共有を図った。 ・教務・研究主任部会で、郷土資料集「きらり☆きたあきた」を活用したふるさと教育の推進について研修を行った。また、社会科教育推進部会においても、社会科の授業における活用法について研修を行った。 ・例年行っている郷土学習フィールドワークは、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、実施を見送った。																																
◆自己評価 ・授業研究会については、教職員アンケートにおいて「十分満足」と「概ね満足」の割合が90%以上と、肯定的な評価である。 ・県学習状況調査における「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」割合について、学年によっては県平均を下回っており、検証が必要である。 ・郷土資料集「きらり☆きたあきた」の活用法について研修を重ねたことで、教職員自身が、ふるさと教育の在り方について深く考えるきっかけとなった。 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の行事の多くが中止又は規模縮小となった。児童生徒が地域の方々と直接関わったり、体験的な活動を通してふるさとのよさを実感したりする機会が減ってしまった。																																
◆今後の方向性 ・各校での教職員の研修を支援できるよう、教育センターの各部会の研修内容に更なる充実を図る。 ・引き続き、「きらり☆きたあきた」の活用を推進するとともに、コロナ禍における、地域に根ざしたキャリア教育の在り方を模索していく。																																
◆評価委員の意見 学習等に有効な資料については、積極的に活用され、事例などの情報共有に努めて、授業研究の充実を図られたい。																																

6	施策名	学校教育の充実 施策の方向性 基礎学力の定着と学力向上			学校教育課
事業名	外国青年招致事業				決算額 28,353 千円
◆事業の目的 小学校外国語活動の全ての授業にALTを配置することにより、学級担任が安心して授業を計画し、実践できるようにする。また、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図り、異なった文化に対する理解を深めることを目的とする。			◆事業概要 小・中学校の外国語・外国語活動の授業の充実を図るため、ALT及びALTコーディネーターを配置する。 ALTコーディネーター 1人		
◆評価指標及び実績		アウトカム			
評価指標 県学習状況調査平均通過率で県平均+3%以上		中1	H30 -2.7%	R1 -3.6%	R2 +1.5%
		中2	+3.8%	-3.1%	-2.1%
同質問紙「外国語活動(英語)の勉強が好きだ」が県平均+3%以上		小5	+10.4%	-4.2%	+1.6%
		小6	+7.4%	+4.9%	-6.8%
		中1	-7.8%	-3.5%	+6.7%
		中2	-10.8%	-4.2%	-3.9%
英検IBA3級以上取得の割合が県平均を上回る		中3 県	46.3%	32.5%	48.3%
		中3 市	49.1%	31.0%	44.8%
		比較	+2.8%	-1.5%	-3.5%
◆令和2年度の実施状況 外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指すため、外国語指導助手(ALT)として、7名(全てアメリカ出身)を招聘し、小学校10校、中学校4校に派遣した。 ALTの人数や学級数、また原則的に中学校区単位で同一のALTを担当させ、児童生徒の視点とALTの児童生徒理解の視点から、小・中連携を図った。 ALTコーディネーター派遣事業を実施し、ALTの資質向上に努めた。					
◆自己評価 評価指標を達成できたのは「外国語活動(英語)の勉強が好きだ」の中1のみであった。県平均との±は目安の一つではあるが、学年によって差があるため、学年の実態に合わせた指導とともに、個に応じた指導の充実を図る必要がある。					
◆今後の方向性 コーディネーター訪問を定期的に行いALTの資質向上を図っていく。					
◆評価委員の意見 児童生徒の興味も変動がある中で、ALTコーディネーターを中心にコミュニケーションが取れていると思われる。継続してALTの資質向上に努められたい。					

7	施策名	学校教育の充実				学校教育課
		施策の方向性 基礎学力の定着と学力向上/体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実				
事業名	総合学習補助事業					決算額 692 千円
◆事業の目的 地域の暮らしや伝統・文化を学び、ふるさとのよさの発見、愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起を行い、ふるさとを支えようとする子どもを育成することを目的とする。			◆事業概要 各校で実施するふるさと教育へ予算的支援をすることで創意工夫を促す。			
◆評価指標及び実績		例年実施				
		評価指標		H30	R1	R2
		実施計画に対する執行率		95.2%	83.3%	65.9%
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため各校とも活動内容の変更を余儀なくされたが、可能な範囲で地域の人々と交流し伝統や文化を学んだ。合川小学校の「いぶりがっこ作り(合川小雅香)」や鷹巣南小学校の「伝統芸能の継承」などは、感染予防に努めながら活動することができた。						
◆自己評価 体験を重視する活動は、感染症対策の観点から地域住民との交流などは慎重な判断が求められた。特に児童生徒数の多い学校では計画の変更が追いつかず、中止する傾向が見られたため、実施計画に対する執行率が低下した。						
◆今後の方向性 新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、各学校の実態に合わせて更なる創意工夫を促すために内容に応じた配分を続ける。						
◆評価委員の意見 活動に制限がある中、対策を講じながら工夫している学校もあり、評価できる。 今後の各校の特色ある体験活動の実施に期待したい。						

8	施策名	学校教育の充実				学校教育課
		施策の方向性 教育環境の充実				
事業名	小・中学校パソコン導入事業(GIGAスクール構想)				決算額 214,570 千円	
◆事業の目的 情報化に順応できる人材の育成のため導入を進めてきたPC及び周辺機器について、新型コロナウイルス感染症対策のため「学びの保障」の一端として整備し直し、一人1台端末による個別最適化により資質・能力を一層確実に育成することを目指すもの。			◆事業概要 これまで三人に1台の想定で導入してきた学習者用タブレットを一人1台配置とした。また、教員の校務の円滑化を図るため導入してきたPC、プリンタ、サーバ等周辺機器について引き続き配置した。			
◆評価指標及び実績		ロードマップ				
			R2	R3	R4	R5
整備計画 (令和2年度～令和5年度)		高規格化工事				
		タブレット新規購入				
		582台	403台	375台	331台	
高規格化工事		実施				
新規購入台数		1,428台	－	－	－	
配置替えによる対応台数		263台	－	－	－	
◆令和2年度の実施状況 文部科学省のロードマップに沿って整備を計画していたGIGAスクール構想だが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から計画を前倒して整備することとなった。市内9校の小中学校に対して情報ネットワークの高規格化工事を実施、リースの残存するタブレットを活用しつつ不足するタブレットを新規購入、一人1台端末環境を整備した。阿仁地域の4校については生徒児童数を考慮のうえ工事をせず、既存のネットワークに機器を増強することで整備した。						
◆自己評価 国で示すGIGAスクール構想に基づくIT環境について、令和3年度から本格的に運用できる環境を整えることができた。						
◆今後の方向性 導入したタブレットを活用した学習活動の充実を図ると共に、今後の更新計画について検討する。						
◆評価委員の意見 オンラインでの端末活用について、課題の解消とシステム構築がますます重要であることから、今後の方向性を十分検討して整備されたい。						

9	学校教育の充実 施策名 施策の方向性 基礎学力の定着と学力向上		学校教育課																																
事業名	学校生活サポート員配置事業		決算額 53,966 千円																																
◆事業の目的 教育的支援を必要とする児童・生徒の学校生活支援及び学校支援を行う。		◆事業概要 各学校の教員と連携の上、必要な支援に取り組む。																																	
◆評価指標及び実績		例年実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価指標</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">児童生徒数</td> <td>小学校</td> <td>1,156人</td> <td>1,115人</td> <td>1,075人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>668人</td> <td>624人</td> <td>602人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">支援対象児童生徒数</td> <td>小学校</td> <td>87人</td> <td>103人</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>26人</td> <td>21人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">配置支援員数</td> <td>小学校</td> <td>24人</td> <td>25人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>7人</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>		評価指標		H30	R1	R2	児童生徒数	小学校	1,156人	1,115人	1,075人	中学校	668人	624人	602人	支援対象児童生徒数	小学校	87人	103人	105人	中学校	26人	21人	13人	配置支援員数	小学校	24人	25人	26人	中学校	7人	7人	4人
評価指標		H30	R1	R2																															
児童生徒数	小学校	1,156人	1,115人	1,075人																															
	中学校	668人	624人	602人																															
支援対象児童生徒数	小学校	87人	103人	105人																															
	中学校	26人	21人	13人																															
配置支援員数	小学校	24人	25人	26人																															
	中学校	7人	7人	4人																															
◆令和2年度の実施状況 特別な支援を必要とする児童生徒118人に対し、支援員30名を配置して学校生活全般にわたって支援を行った。また、支援員の研修を行い質の向上に努めた。																																			
◆自己評価 支援員の配置により、対象児童生徒が充実した学校生活を送ることができたほか、周囲の児童生徒も落ち着いて学習に取り組むことができた。また、担任の負担が軽減されることで、学級経営や授業づくりが充実し、学校全体の教育効果を高めることができた。																																			
◆今後の方向性 対象児童生徒の学校生活の充実と、教員への負担軽減による教育効果の向上を図るため支援員の配置を継続していく。また支援員に対しては対象児童生徒の行動への理解や支援の仕方などのスキルを高めるための研修を行っていく。																																			
◆評価委員の意見 支援員の働きは、児童生徒や教員にも効果が高いと思われるため、継続実施を図られたい。																																			

10	学校教育の充実 施策名 施策の方向性 教育環境の充実			学校教育課																
事業名	不登校児童生徒対策事業			決算額 1,224 千円																
◆事業の目的 不登校及び不登校傾向の児童・生徒と在籍校や関係機関と連携しながら、その保護者への総合的な支援も行い、学校復帰を目的とする。		◆事業概要 教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置し、学校復帰に向けた支援や学習指導を行う。																		
◆評価指標及び実績		例年実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校または不登校傾向児童生徒数</td> <td>21人</td> <td>14人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>在籍者数</td> <td>5人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>うち学校復帰者数</td> <td>1人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>			評価指標	H30	R1	R2	不登校または不登校傾向児童生徒数	21人	14人	23人	在籍者数	5人	3人	3人	うち学校復帰者数	1人	0人	1人
評価指標	H30	R1	R2																	
不登校または不登校傾向児童生徒数	21人	14人	23人																	
在籍者数	5人	3人	3人																	
うち学校復帰者数	1人	0人	1人																	
◆令和2年度の実施状況 在籍者3人のうち、1人が学校復帰した。 教員免許所有者1名を配置した。																				
◆自己評価 全国的にも不登校(不登校傾向)の児童生徒は増加傾向にあるが、個々の実態に合わせ、丁寧な支援を行って登校・登室に結び付くよう対応している。																				
◆今後の方向性 不登校(不登校傾向)児童生徒の居場所となり、学校復帰に向けた取組ができる重要な場所として今後も継続する。また、生徒の実態に合わせて学校訪問による指導を行い、学校復帰に向けたきめ細やかな支援を行う。																				
◆評価委員の意見 個々の実態に応じた支援について、緻密な対応に努められたい。																				

11	学校教育の充実				学校教育課	
	施策名	施策の方向性 教育環境の充実				
事業名	小・中学校校務支援システム導入事業				決算額 10,426 千円	
◆事業の目的 教員の校務負担の軽減と、教育の質的向上を図ることを目的とする。			◆事業概要 教員の校務負担の軽減を図るため校務支援システムを導入し、効果的な運用を図る。			
◆評価指標及び実績		アウトカム				
評価指標 アンケートにおいて、校務に係る作業時間が短くなったと答えた割合、また校務以外の時間が増えた・少し増えたと答えた割合が前年度に比べ増加すること。		実績		H30	R1	R2
		システム導入前に比べて作業時間が短くなった・少し短くなったと答えた割合	通知表作成	30.9%	85.9%	90.0%
			指導要録1	12.1%	87.5%	93.0%
			出席簿作成	58.8%	95.1%	95.0%
		導入前に比べて校務以外の時間（児童生徒と向き合う時間、教材研究等）について、増えた・少し増えたと答えた割合		73.0%	73.0%	64.0%
◆令和2年度の実施状況 システムの運用を継続し、導入の効果の指標となるアンケートについて行った。その一方、より働き方改革に繋げるため、教職員の出退勤時刻について可視化できるよう出退勤管理システムを追加導入し、勤務時間の把握に努めた。						
◆自己評価 システム導入前と比べて、90%以上の教員において校務の作業時間が「短くなった・少し短くなった」と回答しており、負担軽減が図られたと考えられる。一方、校務以外の時間については「増えた・少し増えた」と答えた割合が導入後当初に比べて若干減少しており、検証が必要である。						
◆今後の方向性 引き続きシステムを運用し、教員の校務に係る負担を軽減して教育の質的向上に繋げる。アンケートについて導入前と比較した項目としているが、時間の経過と共に導入前の実感が薄れており、また新規教員については比較のしようがないため、来年度以降のアンケートについて項目を工夫する。						
◆評価委員の意見 コロナ対策の影響も少なからずあり、関連した教員の校務の増加が懸念される。アンケート内容の見直し、精査をされ、システムの効果的運用を期待したい。						

12	学校教育の充実		学校教育課
	施策名	施策の方向性 教育環境の充実	
事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業		決算額 21,478 千円
◆事業の目的 学校における感染リスクの低減を図り、持続的な学校運営を目的とする。		◆事業概要 感染症対策に必要な設備及び物品を整備する。	
◆評価指標及び実績		緊急対策	
		品目	実績
		除菌便座クリーナー	204個 841,500 円
		非接触式体温計	106個 1,014,420 円
		消毒用アルコール	199本 1,247,730 円
		サーキュレーター	110台 2,849,000 円
		自動給水栓(スイングレバー)	89カ所 (643カ所) 11,539,473 円
		保健衛生用品	14校 3,985,603 円
◆令和2年度の実施状況 登校後の検温に対応するため非接触型体温計を各学校に配付。学校内においては接触による感染を予防するためアルコール消毒液、除菌便座クリーナーを市内小中学校全校に配付し消毒に努めた。消毒作業に係る教職員の負担軽減対策として希望する学校に消毒作業スタッフを配置した。また、各学校の普通教室等にサーキュレーターを配置し、換気に努めるよう指示、併せて各学校のトイレに自動水栓を設置、手洗い場の蛇口をスイングレバーにし、接触による感染防止に努めながら手洗いを奨励し、予防に努めた。更に各学校の実情に応じた保健衛生用品を支給した。			
◆自己評価 緊急事案に対して迅速な対応ができた。			
◆今後の方向性 新型コロナウイルス感染症の収束まで、引き続き検温や校内の消毒、適度な換気、手洗いの奨励により感染予防に努める。			
◆評価委員の意見 緊急対策事業につき、特に意見なし。			

13	生涯学習の充実	生涯学習課																				
	施策名 施策の方向性 地域づくりにつながる社会教育																					
事業名	新成人事業	決算額 101 千円																				
◆事業の目的 成人式を通して、責任ある社会人としての自覚を促すとともに、ふるさとを支える志の醸成にもつなげる。		◆事業概要 市内在住者及び市内中学校・大館国際情報学院中学校を卒業者を対象に成人式(式典・講演・写真撮影)を実施する。 新成人で組織する成人式実行委員会を設けて、成人式の自主的な運営を促している。																				
◆評価指標及び実績 成人式の参加率		例年実施 <table><tr><th>実績</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th></tr><tr><td>対象者数</td><td>309人</td><td>321人</td><td>318人</td><td>289人</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>242人</td><td>234人</td><td>244人</td><td>180人</td></tr><tr><td>参加率</td><td>78.32%</td><td>72.89%</td><td>76.72%</td><td>未実施</td></tr></table> ※R2は未実施であったため参加者数には申込者数を記載	実績	H29	H30	R1	R2	対象者数	309人	321人	318人	289人	参加者数	242人	234人	244人	180人	参加率	78.32%	72.89%	76.72%	未実施
実績	H29	H30	R1	R2																		
対象者数	309人	321人	318人	289人																		
参加者数	242人	234人	244人	180人																		
参加率	78.32%	72.89%	76.72%	未実施																		
◆令和2年度の実施状況 新成人で組織する成人式実行委員会(14人)を設けて、成人式の方向性について協議、最終的には次年度へ延期を決定した。1月の開催案内通知を発送し準備を進めていたことから、実行委員と協働で二十歳のメッセージ集「はじめの一歩」を作成し、成人の日に合わせて参加予定者に配付することができた。																						
◆自己評価 例年の8月15日開催を1月10日に延期、開催通知を発送した後、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため次年度へ再延期とした。																						
◆今後の方向性 郷土愛を育む取り組みの一つの行事として、今後も継続して実施していく。また、自ら運営する成人式とするため、実行委員の役割分担を明確にし、式典内容の充実を図るとともに全体の参加率増を目指す。 令和4年度に予定されている成人年齢の引き下げについて市の方向性を決定する。																						
◆評価委員の意見 やむなく延期されている事業だが、社会に出た人も学生の人もある一つのポイントであるため、継続実施を図られたたい。																						

14	生涯学習の充実		生涯学習課		
	施策名	施策の方向性 地域づくりにつながる社会教育			
事業名	日本語教室開催事業		決算額 521 千円		
◆事業の目的 主に外国人配偶者や仕事のために市内在住者を対象に、日本語の読み書きや日常会話習得、検定合格等を目的とする。		◆事業概要 講師1人、指導員2人で毎月3～4回日本語教室を開催し、日本語の習得と日本文化の理解につながるようサポートする。			
◆評価指標及び実績		例年実施			
日本語教室の開催回数及び受講者数					
		実績	H30	R1	R2
		授業回数	35回	35回	37回
		受講者数 (延べ)	164人	208人	258人
◆令和2年度の実施状況					
・新型コロナウイルス感染症対策として、密にならないような対策を講じて実施した。 ・1名が日本語能力試験N2を受験し、合格した。 ・切符の購入方法と時刻表の見方を事前に学び、内陸線を利用した田んぼアートツアーを実施。					
◆自己評価					
市内に定住している外国人が日常生活を送るために必要な日本語の習得のほか、資格取得にも役立ってきている。 また、地域の文化に触れながら日本語を学ぶ授業を行っており、授業で学んだ内容を実践するだけでなく、日本文化の理解促進を図ることができた。					
◆今後の方向性					
引き続き、日本語の指導や教室でのコミュニケーションをとおして、受講者の日本での生活のサポートを行う。					
◆評価委員の意見					
日本文化の理解に繋がる実践的なサポートが受講者の増加にも繋がっていると高く評価できる。					

15	生涯学習の充実		生涯学習課		
	施策名	施策の方向性 地域づくりにつながる社会教育			
事業名	青少年育成事業		決算額 558 千円		
◆事業の目的		◆事業概要			
青少年がその誇りと責任についての自覚を高めるため、非行・事故防止と社会環境の浄化を図る。青少年の健全育成を図るための地域組織の推進を図る。		青少年育成北秋田市民会議や少年保護育成委員会が、非行防止活動や青少年の見守り活動を実施している。 伝承芸能活動に取り組んでいる青少年を激励し、郷土に対する誇りを持たせるとともに、健全な成長を支援する。			
◆評価指標及び実績		例年実施			
青少年育成事業の実施内容					
		H29	H30	R1	R2
小・中あいさつ運動（年間回数）		2回	16回	12回	7回
伝承芸能合同発表会（実施有無）		○	○	○	×
研修会の実施（実施有無）		○	○	○	×
◆令和2年度の実施状況					
新型コロナウイルス感染症拡大防止により全てはまわれなかったが、市内小中学校でのあいさつ運動（8月～11月：計7回）を行った。わたしの主張県北地区予選大会（9月3日）、県北地区青少年育成運動活性化研修会（12月12日）は参加人数の縮減や手指消毒、アクリル板の設置などコロナ感染対策をして行い、その中で非行・被害防止教室や子ども伝承芸能発表（合川：福田獅子舞保存会）なども行った。また、青少年問題協議会では集まっの開催はできなかったが、書面にて各団体の活動報告や新型コロナウイルス感染症による青少年への影響などについて報告をいただき、取りまとめ報告書を作成して、各団体へ情報提供した。					
◆自己評価					
青少年を取り巻く環境について、関係団体や行政機関との問題意識の共有を図ることができた。また、活動が制限される中ではあったが、わたしの主張県北地区予選大会や県北地区青少年育成運動活性化研修会では、コロナ対策を講じて開催し、開催市としての責務を果たすことができた。青少年の健全育成につなげることができたと考えている。					
◆今後の方向性					
引き続き、地域の大人が青少年を育成するための課題や情報を共有する場を提供する。青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策を講ずるための調査審議をし、適切に実施するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。					
◆評価委員の意見					
今後も育成団体の活動について、支援に努められたい。					

16	生涯学習の充実			生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 地域づくりにつながる社会教育			
事業名	花いっぱい運動推進事業			決算額 360 千円	
◆事業の目的 花の美しさは、明るい社会を築くうえで大きな役割を果たすため、花壇づくりを通した美しいまちづくりと地域づくりを目指す。		◆事業概要 北秋田市花いっぱい運動推進協議会が主催する「北秋田市花だんコンクール」を支援する。市の花あじさいの植栽普及など地域ぐるみで環境美化運動の推進を行う。			
◆評価指標及び実績		例年実施 花だんコンクール参加者数			
		H29	H30	R1	R2
		12団体 4個人	14団体 4個人	12団体 3個人	16団体 1個人
◆令和2年度の実施状況 「めざせ！花と笑顔のまち 北秋田」をスローガンに、花いっぱい運動推進協議会が主催する「北秋田市花だんコンクール」を支援し、新規5団体を加えた16団体1個人へ表彰を行った。 また、花いっぱい運動推進協議会により、花の苗の育成と頒布、6月には市の花あじさいの植栽事業(鷹巣中学校、四季美湖など)が実施された。					
◆自己評価 学校の花壇整備に地域の高齢者が支援する、高齢者大学の花壇づくりに児童・生徒が協力するなど地域ぐるみの活動がふえ、市花だんコンクールの開催や花育活動をととして、美しいまちづくりと地域づくりへの啓蒙活動を推進することができた。					
◆今後の方向性 引き続き、花だんコンクールや地域と小・中学校が連携した植栽活動をととして、花を育てることで心が潤い地域が元気になる交流型の取り組みを図る。					
◆評価委員の意見 地域交流の場として期待するとともに、環境美化の意識共有に効果的なため、事業推進に努められたい。					

17	生涯学習の充実				生涯学習課		
	施策名	施策の方向性 地域づくりにつながる社会教育					
事業名	地域学校協働本部事業				決算額 599 千円		
◆事業の目的 地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行い、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を育む。			◆事業概要 より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成する。				
◆評価指標及び実績			アウトプット				
評価指標			H28	H29	H30	R1	R2
学校支援地域コーディネーター数 50人			33人	32人	31人	32人	29人
学校支援地域ボランティア数 720人			—	—	—	—	532人
◆令和2年度の実施状況 「学校運営協議会制度」を8校(鷹巣小、鷹巣中央小、鷹巣南小、米内沢小、前田小、鷹巣中、合川中、森吉中)が導入し、地域学校協働活動推進員を18名委嘱した。「ネットワーク会議」を2回、「ぶっちゃけ学習会」を1回開催し、情報共有のほか、「熟議」や「合川小学校による事例発表等」を行った。							
◆自己評価 学校支援地域コーディネーター及びボランティアの人数は評価指標を達成することができなかったが、「学校運営協議会」を市内小・中学校すべてに設置することで、地域と学校との連携、地域ぐるみの人材育成の取り組みの基盤をつくることができた。 情報共有のほか、「熟議」や「事例発表」などを通して、地域ぐるみで目指す目標を共有し、子どもを育成する協働活動への理解を深めることができた。							
◆今後の方向性 引き続き、各校との連絡調整や地域学校協働活動推進員の情報交換等を実施し、課題の共有や課題解決に向けた取組みを図る。また、新たな後期基本計画では、地域学校協働活動に参加したボランティアと子どもの満足度を数値目標とした。							
◆評価委員の意見 コロナ禍において地域との連携が困難な中、「学校運営協議会」を小中すべてに設置できたことは評価できる。今後の取組に大いに期待したい。							

18	生涯学習の充実				生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化				
事業名	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業				決算額 39,043 千円	
◆事業の目的 「憩い・交流・にぎわい」をコンセプトに中心市街地の拠点施設として、市民の自由な交流・活動の場であり、市民ふれあいプラザを拠点として学習活動を行う市民を増やし、交流人口の増につなげる。		◆事業概要 中心市街地の拠点施設であり、市民のニーズを取り入れながら、多くの人に利用される施設となるよう適切な管理運営を行う。				
◆評価指標及び実績		アウトプット				
評価指標		市民ふれあいプラザ利用者				
ふれあいプラザ利用者数(単年) 57,000人		実績	H29	H30	R1	R2
		来館者数	269,704人	295,481人	286,859人	216,829人
		利用者数 (単年)	66,114人	67,859人	60,937人	40,227人
		利用件数	4,350件	4,552件	4,625件	4,121件
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月18日から7時閉館とする時短営業、4月22日から5月11日全館休館とするなど対策を行った。開館後も、検温、マスクの着用、テーブル等の消毒の徹底など利用者の協力を得ながら、新型コロナウイルス感染症対策に努め、安全・安心を確保し利用者の回復を図った。						
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、安心・快適に利用できるよう施設の維持管理に努めた。 コロナ禍のため、年間来館者は216,829人と前年比75%、年間利用者は40,227人と前年比66%であり、評価指標の達成率は70.5%であった。						
◆今後の方向性 引き続き、中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民に親しまれる管理運営を心がける。また、災害避難所としても役割も担う。						
◆評価委員の意見 時短、休館もあった中で、中心的な活動拠点の場として重要な施設となっている。 今後も利用拡大に努められたい。						

19	生涯学習の充実					生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 学びの場・発表の場の提供					
事業名	高齢者教育事業					決算額 470 千円	
◆事業の目的 高齢者の学びの機会を充実させ、生きがいづくりや仲間づくりを目的とする。			◆事業概要 市内4地区(鷹巣、合川、森吉、阿仁)において、入学式・卒業式、全体講座(年5回程度)、社会見学、クラブ活動(月1回程度)などを行っている。				
◆評価指標及び実績		アウトプット					
地区別受講者数(単年) 鷹巣213人以上 合川73人以上 森吉83人以上 阿仁54人以上 (過去3年間の平均)		地区別受講者数					
		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		鷹巣地区	205人	214人	220人	216人	182人
		合川地区	72人	74人	74人	83人	77人
		森吉地区	79人	84人	88人	82人	60人
		阿仁地区	52人	54人	57人	57人	50人
		合計	408人	425人	439人	438人	369人
◆令和2年度の実施状況 ・各地区高齢者大学の入学・開校式及び4地区すべての受講生が集まる合同講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 ・全体講座、卒業・閉講式及び高鷹大学(鷹巣)の全体講座と定期講座「グッドライフ講座」の合同企画は開催できた。 ・クラブ活動や学園祭(鷹巣地区のみ)などの活動。							
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかった行事もあり、合川地区以外は評価指標を達成することが出来なかったが、総じて新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで開催し、前向きに学習する意欲を高めることができた。							
◆今後の方向性 引き続き、高齢者の生きがいづくりはもちろん、受講生個々の主体性を育むための学びの機会を提供する。令和2年度にできなかった社会見学等の野外活動を、感染状況等を踏まえたうえで令和3年度には実施していきたい。							
◆評価委員の意見 高齢化率に合わせた教育事業という観点で、活動について工夫を図られたい。							

20	施策名	生涯学習の充実				生涯学習課
		施策の方向性				
		学びの場・発表の場の提供				
事業名	公民館講座開設事業					決算額 2,972 千円
◆事業の目的 心の豊かさや生活の向上のために学習機会の提供を行い、その学習をとおして地域活動への参加を促進することを目的とする。			◆事業概要 【定期講座・短期講座・公開講座】 各公民館及び北秋田市民ふれあいプラザにおいて、生涯学習の推進のため各種講座を開催した。			
◆評価指標及び実績						
評価指標		アウトプット				
		定期講座・短期講座・公開講座				
			H29	H30	R1	R2
		講座開催数	—	342回	380回	369回
		延べ受講者数	—	4,879人	6,262人	5,205人
自主講座への移行数 20講座(H26からの累計)	自主講座移行数	21	25	31	35	H26 (10講座)
自主講座の講師担当市民数 370人(累計)	自主講座講師人数	62人	79人	157人	164人	減免登録 自主講座 数
		アウトカム				
			H29	H30	R1	R2
自発的に学習する市民の割合 65.6%	自発的に学習する 市民の割合	58.9%	58.2%	57.9%	58.7%	市民意識 調査
◆令和2年度の実施状況 各公民館及び市民ふれあいプラザにおいて、各種講座を開催した。また、生涯学習フェスタや文化祭にて成果を発表した。 《定期講座数・延べ受講者数》 鷹巣 38講座 (2,673人) 合川 10講座 (1,217人) 森吉 11講座 (637人) 阿仁 11講座 (678人) 計 70講座 (5,205人) 《利用者アンケートの実施》 各公民館及び北秋田市民ふれあいプラザにおいて、R3. 3月に「公民館等利用者アンケート」を実施した。						
◆自己評価 評価指標の「自主講座の講師担当市民数」および「自発的に学習する市民の割合」について達成できていないが、コロナ禍においても、対策を講じながら開催することができた。講座を通して新たな趣味の発見など、学習を深め、生涯学習に対する意識の向上を図った。						
◆今後の方向性 3月に実施した「公民館等利用者アンケート」の結果を分析することで、市民の要望に応えるような講座と学ばせたい講座をバランスよく開催していく。地域課題に対し関心を持ち、主体的に講座に参加してもらえるような講座運営に努める。						
◆評価委員の意見 定期講座から自主講座への移行について、講師、受講者が意識的に生涯学習に取り組んでいる。今後も魅力的な講座開設に努められたい。						

21	生涯学習の充実				生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 学びの場・発表の場の提供				
事業名	公民館管理事業				決算額 66,703 千円	
◆事業の目的		◆事業概要				
地域の拠点として、多くの市民に親しまれる公民館を目指し、学び・発表の場や地域活動の場を提供する。施設の維持管理に努め、利用者の利便性向上を図る。		適切な維持管理により、施設利用者の安心・安全に努める。また、施設の使用許可申請や使用料減免制度等を整備し、利用者の利便性向上を図る。				
◆評価指標及び実績		例年実施				
		年間施設利用者数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		鷹巣地区	37,233人	30,843人	34,095人	23,844人
		合川地区	24,206人	23,193人	21,146人	4,404人
		森吉地区	19,242人	18,026人	17,279人	12,508人
		阿仁地区	11,985人	12,609人	11,819人	6,548人
			92,666人	84,671人	84,339人	47,304人
		*利用者数は対前年比37,035人の減(56.09%)であった。(コロナの影響)				
◆令和2年度の実施状況						
【コロナ対策】 市内すべての公民館において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、4月22日から5月11日全館休館とするなど対策を行った。開館後は、利用者が安全・安心に施設を利用できるよう感染対策を徹底した。						
【施設整備】 合川公民館は、事前に周知を図ったことで9月から代替施設への切り替えを行った。また、合川保健センターに洋式トイレやエアコンを移設するなど適切な維持管理を図った。その他の公民館においても、定期的に施設内外の点検を行うことで計画的に修繕等を施し、利用者の安全・安心に努めた。						
◆自己評価						
新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して施設を利用することができた。						
合川公民館の解体に伴い代替施設の周知徹底を図ったことで、代替施設への切り替えがスムーズにでき、市民の生涯学習活動の推進に与える影響を小さくすることができた。また、洋式トイレやエアコンの移設により、快適な施設利用が図られた。						
◆今後の方向性						
各公民館施設は、学びの場、地域活動の場、また災害時の避難場所としても必要不可欠な地域の拠点施設である。事業を継続し長寿化を図りながら、大規模改修や建て替えについての検討も必要である。						
◆評価委員の意見						
地域拠点として重要な活動の場であることから、適切な維持管理に努められたい。						

22	生涯学習の充実			生涯学習課												
	施策名	施策の方向性 児童・生徒の学校外の学習・交流推進														
事業名	放課後児童健全育成事業			決算額 108,491 千円												
◆事業の目的		◆事業概要														
保護者が就労などの事情で、学校の授業が終わった後や夏休みなどの長期休業中に家庭に居ない児童に、大人の見守りのもとで安心して遊びや学び、活動の場を与え、健全な育成を図る。		児童が安全・安心に過ごせるような環境づくりと、必要な保育を行う。														
◆評価指標及び実績		例年実施 放課後児童クラブ登録児童数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録児童数</td> <td>613人</td> <td>608人</td> <td>613人</td> </tr> <tr> <td>待機児童数</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>			実績	H30	R1	R2	登録児童数	613人	608人	613人	待機児童数	0人	0人	0人
実績	H30	R1	R2													
登録児童数	613人	608人	613人													
待機児童数	0人	0人	0人													
◆令和2年度の実施状況																
市内の小学生を対象に放課後・土曜日・長期休校時に過ごせる施設として10施設15クラスを運営した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月22日～5月2日までは小学校が臨時休校となり、その間、朝からの臨時開所を行った。																
◆自己評価																
児童が安全・安心に過ごせる居場所の提供をすることができた。何らかの問題を抱えている入所困難な児童に対しても、面談等により適正な受入れ対応ができた。																
◆今後の方向性																
引き続き、児童が安全・安心に過ごせるよう、人材の育成、施設の管理に努めていく。																
◆評価委員の意見																
必要不可欠な事業であるため、継続して事業運営に努められたい。																

23	生涯学習の充実				生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 児童・生徒の学校外の学習・交流推進				
事業名	放課後子ども教室推進事業				決算額 1,373 千円	
◆事業の目的 放課後や週末等において、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。			◆事業概要 【放課後子ども教室】 市内全児童を対象に、放課後に勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などを行い、子どもたちの学校教育以外の様々な体験・交流活動の機会を作る。			
◆評価指標及び実績		アウトプット				
1.開催回数 224回 2.参加人数 5,111回 (過去3年間の平均)		放課後子ども教室の開催回数と参加人数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		開催回数	305	217	150	89
		参加人数 (延べ)	6,650人	4,887人	3,796人	2,289人
◆令和2年度の実施状況 地域住民の参画を得ながら、8教室で放課後子ども教室を開催したが、コロナ禍及び支援員の多忙化・高齢化により回数・参加人数ともに軒並み減少した。その中でも、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら様々な体験学習を実施し、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所をつくった。						
◆自己評価 開催回数は減少したが、事故なく放課後子ども教室事業を継続したことで、子どもたちが安全・安心して過ごせる居場所づくりを推進することができた。						
◆今後の方向性 子どもたちに地域の自然や文化を教えることで、地元の魅力を伝えていくような取り組みとするためにも、人材を確保して活動回数を維持する。						
◆評価委員の意見 コロナ禍による影響もあったが、対策を講じて事業実施に努めており評価できる。						

24	生涯学習の充実			生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 児童・生徒の学校外の学習・交流推進			
事業名	家庭教育支援推進事業			決算額 323 千円	
◆事業の目的		◆事業概要			
健やかな子どもの育成を目指し、全ての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域の多様な人材で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、親の学びや育ちを応援するとともに、家庭と地域・学校をつなげ、地域全体で家庭教育を支援していく。		【家庭教育講座】 乳幼児から小・中学校の子どもを持つ保護者を対象に、家庭教育に関する講座を開催する。 【家庭教育支援チーム にこっと】 8名の支援員から構成され、市のイベント等で、親子のふれあい、相談窓口開設、手作りおもちゃサロンプースの対応等行っている。			
◆評価指標及び実績		例年実施			
家庭教育講座数とチーム員数					
		実績	H30	R1	R2
		家庭教育講座	2件	5件	2件
		チーム員数	8人	8人	8人
◆令和2年度の実施状況					
【家庭教育講座】 ・9月30日（綴子小学校） 就学時健診 保護者向け子育て講話 「子どもを健やかに育て得る家庭教育 親と子 しあわせのかたち」 ・11月17日（米内沢小学校） 令和2年度 学校保健委員会 「食事の基本と運動の食事について」 講師：公認スポーツ栄養士 【家庭教育支援チーム】 新型コロナウイルスによって中止になった行事もあったなか、活動の準備作業や話し合いのために毎月チーム会議を行った。ねまーる広場で毎月行われていた「きらきらタイム」にて計4回講師を担当し、北秋田市子育て世代包括支援センター主催の「にじいろリボン」において親子支援活動を行った。 また、県主催の全4回の家庭教育支援指導者等研修だけでなく、視察研修に行くなど自主的に研修に励み、チームとしてのスキルアップを図った。					
◆自己評価					
新型コロナウイルス感染症が拡大するなかでもできる支援活動を計画し、実施することができた。					
◆今後の方向性					
家庭教育支援チームとしては、地域の団体や学校と連携したものだけでなく、チーム独自の活動をしたいと考えている。また家庭教育講座においても「にこっと」として講座を行い、より多くの人に知っていただくことでチームが支援する機会を増やしたい。					
◆評価委員の意見					
講座数は減少したものの、チームが自主的に活動を展開しており、継続して支援を図られたい。					

25	施策名	芸術・文化の継承と振興				生涯学習課																	
		施策の方向性 伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進																					
事業名	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業					決算額 203 千円																	
◆事業の目的 伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北縄文遺跡群」の世界遺産一覧表への記載を目指す。			◆事業概要 構成する17遺跡の関係自治体が連携・共同し、縄文文化や縄文遺跡の価値を伝え、理解を深める。フォーラムの開催やリーフレットの作成など、世界遺産登録に向けて情報を発信する。																				
◆評価指標及び実績																							
ロードマップ <table><tr><td>H20</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td colspan="5">世界遺産登録に向けた事業の実施</td><td></td></tr><tr><td>国の暫定一覧表に記載</td><td>文化遺産国内候補</td><td>ユネスコへの推薦決定</td><td>イコモス現地調査</td><td>イコモス勧告</td><td></td></tr></table>						H20	H30	R1	R2	R3	R4	世界遺産登録に向けた事業の実施						国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	イコモス勧告	
H20	H30	R1	R2	R3	R4																		
世界遺産登録に向けた事業の実施																							
国の暫定一覧表に記載	文化遺産国内候補	ユネスコへの推薦決定	イコモス現地調査	イコモス勧告																			
◆令和2年度の実施状況 17遺跡の関係自治体で構成する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部事業では、「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進フォーラムがオンラインで開催されたほか、国際的な認知度・評価を高めるため、英語版・仏語版のリーフレットが作成された。また、県内2遺跡の関係団体とともに秋田縄文遺跡世界遺産推進シンポジウム(オンライン)、秋田の縄文フェア(あきた拠点センターALVE)を開催した。 「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、令和2年1月に国からユネスコへ世界文化遺産候補として推薦されており、9月にはユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議(イコモス)による現地調査が実施された。																							
◆自己評価 関係自治体と連携を図りながら、事業を進めることができた。9月にイコモスの現地調査が行われ、世界文化遺産登録へまた一歩前進することができた。																							
◆今後の方向性 令和3年5月にイコモスが世界遺産委員会に対し、世界遺産一覧表への記載が適当であると勧告した。7月の世界遺産登録に向けて、関係団体と連携を図りながら機運を高め、情報を発信していく。																							
◆評価委員の意見 世界遺産に登録されたことにより、今後、伊勢堂岱遺跡をいろいろな方面から、多角的に検討を深めていく必要があると思われる。期待したい。																							

26	芸術・文化の継承と振興		生涯学習課			
	施策名	施策の方向性 伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進				
事業名	縄文まつり開催事業		決算額 0 千円			
◆事業の目的		◆事業概要				
伊勢堂岱遺跡の価値や魅力を市民に伝え、様々な体験活動をととして参加者の交流を図る。世界遺産登録に向けたPRを行う。		①縄文体験青空教室(土器・土偶づくり、勾玉づくり、火おこしなど) ②ミニコンサート				
◆評価指標及び実績						
①縄文まつり		アウトプット				
参加者数388人(過去4年間平均)以上						
縄文まつり参加者数						
		H28	H29	H30	R1	R2
		約300名	約300名	約350名	約600名	—
②評価指標(数値目標)		アウトカム				
伊勢堂岱遺跡に関する市のイベントや関連団体に参加するなど既に協力している市民の割合						
目標値 2.0%		H28	H29	H30	R1	R2
		1.9%	1.6%	2.3%	2.2%	1.4%
◆令和2年度の実施状況						
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。						
◆自己評価						
今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため縄文まつりを中止したほか、遺跡に関する事業としてジュニアボランティアガイド事業、縄文館講座は制限を設けたため目標値は達成できなかった。しかしながら、平成30年度までには目標値を達成しており、縄文まつり等の事業が定着し、世界遺産登録への機運は高まっていると考える。						
◆今後の方向性						
遺跡の価値や魅力を伝えるために継続して実施していく。興味の薄い世代にも関心を持ってもらえるような取組が課題である。						
◆評価委員の意見						
体験活動の充実や活動の展開について、より効果的な魅力発信を図られたい。						

27	芸術・文化の継承と振興					生涯学習課
	施策名	施策の方向性 伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進				
事業名	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業					決算額 12,025 千円
◆事業の目的 伊勢堂岱縄文館を拠点として遺跡の保存と活用を進め、遺跡の理解を深めるとともに、その価値や魅力を発信する施設として維持管理を行う。			◆事業概要 ・遺跡の発掘調査の成果や出土品の展示 ・施設、遺跡の管理及び情報の発信 ・カムバック縄文サーモン、縄文まつり、縄文館講座、ジュニアボランティアガイドの育成などの事業			
◆評価指標及び実績						
①縄文館入館者数		アウトプット				
評価指数(目標) 10,000人(同類施設・規模のおおよその入館者数)		H28	H29	H30	R1	R2
		10,184人	6,206人	9,499人	8,287人	5,133人
②評価指標(数値目標) 伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合		アウトカム				
目標値 50.0%		H28	H29	H30	R1	R2
		26.8%	29.7%	30.2%	30.3%	28.9%
◆令和2年度の実施状況 施設管理、遺跡内の草刈等環境整備や電気柵の管理を滞りなく行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出の自粛で、縄文館の休館、縄文まつりの中止、ジュニアボランティアガイドの活動など事業は縮小せざるを得なかった。しかしながら、縄文館講座を開催し、新たな取組として「いせどうくんフォトコンテスト」を実施した。						
◆自己評価 施設管理、遺跡内の環境整備を行うことで、来館者の安心安全が図られた。カムバック縄文サーモン、縄文まつり等のイベントは定着しており、ジュニアボランティアガイドの活躍は遺跡の魅力を伝えるための大きな役割を果たしている。 なお、評価指標「伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合」は、市民意識調査で無作為に抽出された対象者によるものであり、対象者は年度ごとに変わるため前年度と比較して割合が減少する場合がある。						
◆今後の方向性 伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産登録の勧告を受けたことにより、今まで以上に注目されると予想されることから、遺跡の魅力を伝えるための情報発信や、学びの場としての活用を図る。また、多くの市民に足を運んでもらうためのアクセス情報の提供等に取り組む。 評価指標「伊勢堂岱遺跡を見学したことのある市民の割合」について、市民意識調査の対象者数を所管課と協議し、より正確な数値を実績としてあげられるよう検討する。						
◆評価委員の意見 ジュニアボランティアガイドやカムバック縄文サーモン等、ここにしかない事業を差別化してより有効的に活用するなど、企画運営に工夫を凝らされたい。						

28	芸術・文化の継承と振興				生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 芸術文化活動の支援				
事業名	図書館事業				決算額 14,744 千円	
◆事業の目的 市民の学習の場の提供のため、施設の維持管理と図書の充実を図る。また、読書活動の推進に努め、図書館・公民館図書室のネットワークサービスの充実を図る。					◆事業概要 ・市内2図書館(鷹巣・森吉図書館)、2図書室(合川・阿仁公民館図書室)の図書購入、貸出・管理 ・北秋田市図書館協議会の開催 ・北秋田市子ども読書活動推進事業の推進 ・きたあきた読書まつりの開催 ・市内保育園・認定こども園児の図書館体験デーの実施	
◆評価指標及び実績						
①貸出冊数		アウトプット				
評価指数(目標値) 44,459冊以上 (個人と団体を合わせた貸出冊数で、過去3年間の平均)		実 績	H29	H30	R1	R2
		貸出冊数(個人) ※2館、2室分	39,392冊	43,704冊	44,374冊	40,594冊
		貸出冊数(団体) ※2館、2室分	2,818冊	1,662冊	1,428冊	1,473冊
②利用者数		アウトプット				
評価指数(目標値)		実 績	H29	H30	R1	R2
1. 貸出人数 15,770人以上		貸出人数 ※2館、2室分	15,241人	15,880人	16,191人	14,745人
2. 来館者数 38,713人以上 (過去3年間の平均)		来館者数 ※2館のみ	39,641人	39,173人	37,325人	34,497人
③きたあきた読書まつり、読書感想文・読書感想画コンクール		例年実施				
			H29	H30	R1	R2
		きたあきた読書まつりR2～2館、2室で本格的開催(R1は縮小して実施)				
		読書まつり来館者数 ※2館、2室分				2,118人
		コンクール応募者数	658人	548人	563人	517人
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症拡大防止により3月～5月中旬まで図書館、公民館図書室を休館したが、その後、鷹巣図書館では、平日夜間の開館時間の延長、祝日に伴う連続休館の解消を図った。 2館、2室で、きたあきた読書まつりを開催し、貸出冊数の増と貸出期限の延長、特別展示、小イベントの実施、雑誌の無償配布を行った。また、市読書感想文・感想画コンクールや市内認定こども園・保育園11園の園児を対象にした図書館体験デーを実施した。						
◆自己評価 従来実施していた読書感想文・感想画コンクールを含めた形で、きたあきた読書まつりを令和元年度から企画しているが、今回は、コロナ禍の中でも、おうち読書など、読書の推進につなげられるように工夫した取組を実施し、利用者の反響も良かった。小イベントに参加する人も多く、リサイクル雑誌も用意している分が全部配布でき、子どもから大人まで読書を楽しんでもらう機会が増えたと実感している。また、市のホームページへの新着案内の掲載や図書館だよりの発行、配布の努力により、広く市民に図書館の情報を周知することができた。						
◆今後の方向性 現在実施している図書館業務を継続し、利用者の利便性につながる取組を実施したい。						
◆評価委員の意見 関係機関との連携や、地道な取組の継続に努められたい。						

29	芸術・文化の継承と振興		生涯学習課			
	施策名	施策の方向性 芸術文化活動の支援				
事業名	文化会館運営事業			決算額 36,079 千円		
◆事業の目的 市民の芸術文化活動の振興を図るとともに、芸術文化活動団体の育成に寄与する。			◆事業概要 貸館業務 施設の維持管理			
◆評価指標及び実績						
①利用者数		アウトプット				
評価指数(目標値)		実 績	H29	H30	R1	R2
26,807人		音 楽	10,772人	9,741人	6,961人	1,635人
(過去3年間の平均)以上		舞 踊	1,269人	2,044人	2,740人	283人
		映 画	2,010人	1,562人	1,435人	270人
		演 劇	1,281人	2,110人	525人	1,072人
		その他(会議等)	19,130人	8,966人	9,876人	4,468人
		合 計	34,462人	24,423人	21,537人	7,728人
◆令和2年度の実施状況 適切な維持管理を行い芸術文化活動の場を提供できたが、令和2年度の利用者数は7,728人となり、前年度の約36%となった。						
工事の概要				事業費		
大駐車場ほか区画線設置工事				374 千円		
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症拡大防止により一時休館せざるを得なかった。その後もしばらくの間、文化会館を利用していたの催しなど回復の兆しが見えず、令和2年度の利用者数は大きく減少した。						
◆今後の方向性 新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、より多くの市民に安心して利用してもらえるように努めたい。開館から29年が経過し、経年劣化が見られることから、適正な維持管理を行う。						
◆評価委員の意見 コロナ禍にある中、状況に応じて対策を講じながらも臨機応変に努められたことは評価できる。						

30	芸術・文化の継承と振興					生涯学習課																																													
	施策名	施策の方向性 芸術文化活動の支援																																																	
事業名	文化会館自主事業					決算額 1,018 千円																																													
◆事業の目的 市民が芸術文化に触れる機会を提供する。感性や創造性が育まれ、心豊かな活力ある社会に寄与する。			◆事業概要 公演・映画・展示等のイベントの開催																																																
◆評価指標及び実績																																																			
文化会館自主事業		アウトプット																																																	
評価指数(目標)																																																			
来場者数2,237人																																																			
(過去3年間の平均)以上																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実 績</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①公演</td> <td>実施回数</td> <td>4回</td> <td>5回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,736人</td> <td>2,102人</td> <td>1,104人</td> <td>153人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②映画</td> <td>実施回数</td> <td>0回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>0人</td> <td>390人</td> <td>79人</td> <td>129人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③展示</td> <td>実施回数</td> <td>未実施</td> <td>未実施</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td></td> <td></td> <td>1300人</td> <td>208人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>来場者数</td> <td>1,736人</td> <td>2,492人</td> <td>2,483人</td> <td>490人</td> </tr> </tbody> </table>					実 績		H29	H30	R1	R2	①公演	実施回数	4回	5回	2回	3回	来場者数	1,736人	2,102人	1,104人	153人	②映画	実施回数	0回	2回	1回	1回	来場者数	0人	390人	79人	129人	③展示	実施回数	未実施	未実施	3回	1回	来場者数			1300人	208人	合計	来場者数	1,736人	2,492人	2,483人	490人
実 績		H29	H30	R1	R2																																														
①公演	実施回数	4回	5回	2回	3回																																														
	来場者数	1,736人	2,102人	1,104人	153人																																														
②映画	実施回数	0回	2回	1回	1回																																														
	来場者数	0人	390人	79人	129人																																														
③展示	実施回数	未実施	未実施	3回	1回																																														
	来場者数			1300人	208人																																														
合計	来場者数	1,736人	2,492人	2,483人	490人																																														
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次の自主事業のみ実施した。 ①ファルコンシネマ ②渡辺喜恵子回顧展 ③渡辺喜恵子作品についての講演と作品朗読 ④渡辺喜恵子作品朗読会 ⑤Xmas Jazz Night																																																			
◆自己評価 開催できるイベントは限られたが、公演・映画・展示等のイベントを行い、市民が芸術文化に触れる機会を提供できた。																																																			
◆今後の方向性 より多くの市民が芸術文化に触れる機会を提供できるよう、市民のニーズに合わせたイベントの企画づくりに取り組む。																																																			
◆評価委員の意見 コロナ禍にある中、状況に応じて対策を講じながらも臨機応変に努められたことは評価できる。																																																			

31	芸術・文化の継承と振興				生涯学習課	
	施策名	施策の方向性 芸術文化活動の支援				
事業名	みちのく子供風土記館運営事業				決算額 349 千円	
◆事業の目的 直木賞作家渡辺喜恵子氏を顕彰するとともに、広く教育・芸術・文化を高め、併せて市民の生活文化の伝承を図る。			◆事業概要 貸館業務 施設の維持管理 大師講の集い			
◆評価指標及び実績						
①利用者数		アウトプット				
評価指数(目標値) 利用者数4,930人 (過去3年間の平均)以		実 績	H29	H30	R1	R2
		利用者数	6,358人	4,329人	4,105人	1,523人
②大師講の集い		例年実施				
		実 績	H29	H30	R1	R2
		参加団体	認定こども園 しゃろーむ	鷹巣中央 保育園	綴子 保育園	未実施
◆令和2年度の実施状況 令和2年度の利用者数は1,523人となり、前年度の約37%であった。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「大師講の集い」については未実施となった。 令和2年度文化会館自主事業「渡辺喜恵子作品についての講演と作品朗読」の会場として使用した。						
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症拡大防止により一時休館となり、その後もしばらくの間、利用の回復が見られなかったため、令和2年度の利用者数は大きく減少した。文化会館の自主事業として渡辺喜恵子作品展等を開催し、渡辺喜恵子氏の顕彰につながった。						
◆今後の方向性 開館から32年が経過し、経年劣化が見られることから、適正な維持管理を行う。より多くの市民の学習や交流の場として利用してもらえるように努める。						
◆評価委員の意見 コロナ禍にある中、状況に応じて対策を講じながらも臨機応変に努められたことは評価できる。						

32	芸術・文化の継承と振興		生涯学習課			
	施策名	施策の方向性				
		芸術文化活動の支援				
事業名	浜辺の歌音楽館運営事業			決算額 5,323 千円		
◆事業の目的		◆事業概要				
浜辺の歌音楽館や成田為三を通じた各種事業を行うことにより、市民が芸術に親しむ機会を提供する。また、成田為三の顕彰と音楽館を拠点とした地域づくりを進め、愛着のある博物館を目指す。		①浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業 ②成田為三墓前演奏会 ③音楽館定期演奏会 ④愛着ある博物館事業				
◆評価指標及び実績						
①浜辺の歌音楽館少年少女合唱団育成事業		例年実施 少年少女合唱団の登録人数及び活動(イベント)数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		団員数	14名	24名	25名	29名
		活動数	7件	13件	9件	10件
②成田為三墓前演奏会		例年実施 墓前演奏会への参加団体数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		参加団体数	2団体	2団体	4団体	2団体
		参加者数	50人	40人	60人	50人
③音楽館定期演奏会 評価指数(目標値) 1公演の来場者数180人 (音楽館座席可能数)		アウトプット 演奏会の回数と来場者数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		回数	2回	4回	1回	未実施
		来場者数	76名	451名	191名	-
④愛着ある博物館事業 評価指数(目標値) 利用人数85人 (過去3年間の平均)以上		アウトプット 音楽館の利用団体数及び人数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		利用団体数	3団体	3団体	3団体	5団体
		人数	85名	76名	93名	139名
⑤浜辺の歌音楽祭		例年実施 音楽祭への参加団体数				
		実績	H29	H30	R1	R2
		参加数	19団体	18団体	19団体	未実施
◆令和2年度の実施状況						
①新型コロナウイルス感染症拡大防止により活動内容は制限されたものの、少年少女合唱団スプリングコンサートの文化会館開催を始め、配信動画への参加や小さな秋の駅ミニコンサートなど例年と異なる手法で活動を行うことが出来た。						
②2団体含む50名が参加し成田為三を偲び歌い継ぐことが出来た。						
③新型コロナウイルス感染症拡大防止により開催出来なかった。						
④各学校の総合学習をはじめ、地域の小学生と団体等が協力し、音楽館の美化活動や竹あかりプロジェクトなど、音楽館を通して地域に誇りを持つことができた。						

◆自己評価

R2年度から始めたスポット展示やグッズ販売、メディア等に取り上げられたことにより来場者も増加傾向にある。また音楽館を拠点に学校、地域、団体が様々な事業を実施することにより、目標である地域に愛される博物館に近づいてきた。

◆今後の方向性

各種事業を継続し、成田為三の顕彰と地域に愛される博物館づくりに取り組む。音楽館開館から30年以上経過し、館内映像・音響設備等が古く営業に支障をきたしているため早急に更新する必要があるため、計画的に設備の更新を図り、健全な運営に取り組みたい。

◆評価委員の意見

イベントが制限される中、地道な事業展開により、地域に根ざした施設として継続運営に努められたい。

33	芸術・文化の継承と振興		生涯学習課																									
	施策名	施策の方向性 芸術文化活動の支援																										
事業名	文化祭開催事業		決算額 71 千円																									
◆事業の目的 様々な芸術文化活動・公民館活動等を行う市民に、発表・鑑賞の場を提供する。各団体の活動の推進と交流を深めるとともに、広く市民の芸術文化活動の普及と参加意欲の高揚を図り、もって北秋田市の地域文化の発展に寄与することを目的とする。		◆事業概要 文化祭の開催																										
◆評価指標及び実績 北秋田市文化祭 評価指数(目標値) 1. 演習団体数 51団体 2. 展示出品数 1,149点 (過去3年間の平均)以上 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="5">アウトプット</th> </tr> <tr> <th colspan="5">文化祭の実施</th> </tr> <tr> <th>実数</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> <tr> <td>演習団体数</td> <td>53団体</td> <td>48団体</td> <td>51団体</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>展示出品数</td> <td>1,128点</td> <td>1,134点</td> <td>1,184点</td> <td>1,408点</td> </tr> </table> ※R2年度はみんなの作品展出展数				アウトプット					文化祭の実施					実数	H29	H30	R1	R2	演習団体数	53団体	48団体	51団体	—	展示出品数	1,128点	1,134点	1,184点	1,408点
アウトプット																												
文化祭の実施																												
実数	H29	H30	R1	R2																								
演習団体数	53団体	48団体	51団体	—																								
展示出品数	1,128点	1,134点	1,184点	1,408点																								
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、演習部門・展示部門ともに開催中止とした。芸術文化功労賞授与式のみ開催した。文化祭事業の代替えとして、「北秋田市みんなの作品展」を開催した。																												
◆自己評価 文化祭を開催することができなかったが、代替え事業の「みんなの作品展」を開催したことで、芸術文化活動の発表の場を提供することができた。																												
◆今後の方向性 市民へ芸術文化活動の発表及び鑑賞会の提供、芸術文化を体験できる機会の提供を継続的に行う。																												
◆評価委員の意見 代替事業の「北秋田市みんなの作品展」の開催について、コストパフォーマンス的にも効果的であり、高く評価できる。今後も継続して文化の振興を図られたい。																												

34	芸術・文化の継承と振興			生涯学習課								
	施策名	施策の方向性 有形文化財の保存と活用										
事業名	文化財保護事業			決算額 2,555 千円								
◆事業の目的 文化財の適正な保護及び継承		◆事業概要 文化財保護審議会の開催、個人所有文化財の所在調査、市所有文化財の管理										
◆評価指標及び実績												
確認した指定文化財数		例年実施 <table border="1"> <tr> <td>実 績</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>件 数</td> <td>-</td> <td>22件</td> <td>43件</td> </tr> </table>			実 績	H30	R1	R2	件 数	-	22件	43件
実 績	H30	R1	R2									
件 数	-	22件	43件									
◆令和2年度の実施状況 三度の文化財保護審議委員会を開催し、1件を市指定文化財に認定した。(3件解除)。市内文化財の確認、維持管理を行い適正な保護と継承が図られた。												
◆自己評価 文化財の指定については長年の調査により文化財の価値付を行い1件を認定することができたことで、地域の文化財愛護思想の醸成につながった。個人所有文化財の調査を行ったことで将来に渡り文化財の保護及び散逸等を未然に防ぐことが出来た。市内の文化財を適正に管理することにより、地域や訪れる人へ市内文化財の周知が図られた。												
◆今後の方向性 指定文化財の所在確認を継続し、適正な保護、管理に努め、地域の宝として継承する。未登録文化財の調査の継続と胡桃館遺跡をはじめとした埋蔵文化財の調査記録活動を行い、地域文化財として適正な保存に努める。												
◆評価委員の意見 指定文化財の現状確認や、未指定文化財の調査研究活動に努められたい。												

35	芸術・文化の継承と振興					生涯学習課																		
	施策名	施策の方向性 その他、特別な事業																						
事業名	日本遺産事業					決算額 2,000 千円																		
◆事業の目的			◆事業概要																					
阿仁マタギの日本遺産認定を目指し、各機関と連携して申請にあたるほか、協議会や作業部会を開催やシンポジウムなどを開催し、機運を高めるとともに阿仁マタギの周知を図る。			日本遺産申請書の提出。協議会、作業部会の開催。阿仁マタギ周知事業及び機運の醸成。																					
◆評価指標及び実績																								
日本遺産事業		ロードマップ <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%;"> <thead> <tr> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">日本遺産登録申請の実施</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">人材育成・普及啓発・調査研究事業の実施</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">申請済</td> <td style="text-align: center;">申請済</td> <td style="text-align: center;">申請済</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					H30	R1	R2	R3	R4	R5	日本遺産登録申請の実施			人材育成・普及啓発・調査研究事業の実施			申請済	申請済	申請済			
H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
日本遺産登録申請の実施			人材育成・普及啓発・調査研究事業の実施																					
申請済	申請済	申請済																						
◆令和2年度の実施状況																								
コロナ禍により当初予定していた事業については大半ができず、次年度への繰越となった。周知事業については、阿仁合の玄関口である阿仁合駅前に大型案内板の設置と、内陸線との事業協力によりマタギ座敷を設置したことによって周知を図ることが出来た。																								
◆自己評価																								
日本遺産認定にはならなかったが、新たに認定候補地の申請書を提出し、3年後の認定を目指すべく取組を継続することができた。																								
◆今後の方向性																								
認定候補地の指定の有無により事業内容に変更を来すが、阿仁マタギ文化は将来にわたり継承すべき文化であり、重要な観光資源であることから協議会等を開催し、引き続き日本遺産認定に向けて取り組む。																								
◆評価委員の意見																								
今後もこの地域が誇るべき文化として、文化財保護の観点からも他課とも連携して情報共有を図られたい。																								

36	芸術・文化の継承と振興 施策名 施策の方向性 無形文化財の保護と継承		生涯学習課			
	事業名 民俗芸能大会事業		決算額 0 千円			
◆事業の目的 市内の民俗芸能等を広く市民に公開するとともに伝承者の意欲及び技術の向上を図る。また、民俗芸能等の現状を調査し、継承に努める。		◆事業概要 ①市民俗芸能大会の開催 ②民族芸能団体との意見交換会の開催				
◆評価指標及び実績						
①北秋田市民俗芸能大会 評価指数(目標値) 交流人数293人 (過去3年間の平均)以上		アウトプット				
		実 績	H29	H30	R1	R2
		参加団体数	5団体	4団体	4団体	未実施
		交流人数	350人	350人	180人	-
②民族芸能団体との意見交換会		例年実施				
		実 績	H29	H30	R1	R2
		開催回数	-	1回	1回	2回
◆令和2年度の実施状況 ①北秋田市民俗芸能大会は新型コロナウイルス感染症防止のため未実施 ②令和2年度から民族芸能団体との意見交換会を各地区毎に実施することとし、合川地区と阿仁地区で意見交換会を行った。 現状の把握や今後の対策等についてより、細やかな意見交換を図ることが出来た。						
◆自己評価 民俗芸能大会を開催することはできなかったが、団体との意見交換会を通じ、民俗芸能大会のあり方や今後の大会運営等について、積極的な意見交換会をすることができた。また、民俗芸能団体等が抱える問題や課題を共有することができた。						
◆今後の方向性 民俗芸能団体会員の高齢化や担い手不足により、民俗芸能大会に参加できる団体が限られてきている中ではあるが、学校や青少年育成事業などと連携を図り、大会の継続開催及び担い手の確保に取り組む。						
◆評価委員の意見 映像記録の保存など、様々な有効手段を活用して伝承に繋がりたい。						

37	芸術・文化の継承と振興 施策名 施策の方向性 無形文化財の保護と継承		生涯学習課																		
事業名	方言保存継承事業		決算額 230 千円																		
◆事業の目的 地域が持つ独自の風土や慣習を表現する一つの文化であり、地域で生活を営み、住んでいた証として引き継がれ残すべき文化である方言を記録し、保存していくことを目的とする。		◆事業概要 方言記録集作成 文字と音声による記録																			
◆評価指標及び実績 方言記録集作成地区																					
ロードマップ <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;">方言保存継承事業計画</td> </tr> <tr> <td>七日市地区 記録・保存</td> <td>地区の選定</td> <td>編纂委員会 設置</td> <td>資料収集</td> <td colspan="2">事業化</td> </tr> </table>				R2	R3	R4	R5	R6	R7		方言保存継承事業計画					七日市地区 記録・保存	地区の選定	編纂委員会 設置	資料収集	事業化	
R2	R3	R4	R5	R6	R7																
	方言保存継承事業計画																				
七日市地区 記録・保存	地区の選定	編纂委員会 設置	資料収集	事業化																	
◆令和2年度の実施状況 七日市地区の方言を記録・保存した。文字と音声による記録を行った。																					
◆自己評価 七日市地区の方言を記録・保存することができた。地域が一体となって取り組むことができた。																					
◆今後の方向性 北秋田市に伝わる方言を記録・保存するため、各地区公民館と連携し、継続的に取り組む。																					
◆評価委員の意見 公民館活動により参加者の意欲向上に繋がることも期待できる。																					

38	スポーツの振興		スポーツ振興課				
	施策名	施策の方向性 スポーツ環境の充実					
事業名	北秋田市民プール管理運営事業		決算額 42,942 千円				
◆事業の目的 指定管理者制度の活用により、多様化する住民ニーズに効果的かつ効率的に対応するため、公の施設の管理に民間事業者等のノウハウ等を活用しつつ、住民サービスの向上と経費の削減を図る。		◆事業概要 【指定管理者】 有限会社シバタ 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和元年度:18,900千円 令和2年度:17,900千円					
◆評価指標及び実績		例年実施	単位:人				
幅広い年代の健康増進及び交流施設として指定管理者と連携し維持管理に努める。		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		利用者数	54,215	55,887	56,098	58,799	54,619
		60歳以上	13,758	14,411	14,510	16,660	16,257
		一般	27,135	26,017	26,427	28,898	24,147
		高校生	1,291	2,878	2,515	1,779	1,294
		中学生以下	12,031	12,581	12,646	11,462	12,921
		◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により、5月連休(7日間)を臨時休館日とし、54,619人と前年度と比較して、約4,000人近い利用者の減少となった。また、空調設備及び給水管を既存の鉄管よりステンレス管へ更新することでメンテナンスの負担が軽減し、設備の長寿命化を図ることができた。					
工事の概要			事業費				
北秋田市民プール空調設備改修工事設計業務 1,584千円 工事監理業務委託(北秋田市民プール空調設備改修工事) 854千円 北秋田市民プール空調設備改修工事 21,604千円			24,042 千円				
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標は設定していないが、新型コロナウイルスの影響により、利用者数は減少したものの、スポーツ施設運営のノウハウを持つ指定管理者へ委託することで、各種教室の開催等で最小限の利用者減少に抑えることができた。							
◆今後の方向性 指定管理業者と連携し、施設維持や住民サービスの向上を図る。							
◆評価委員の意見 コロナ禍においても対策を講じて運営に努められたことは評価できる。 施設の計画的整備とともに、継続的な運営維持に努められたい。							

39	スポーツの振興		スポーツ振興課					
	施策名	施策の方向性 スポーツ環境の充実						
事業名	薬師山スキー場管理運営事業				決算額 3,830 千円			
◆事業の目的 地域住民の能力を活用し本施設の効果及び効率を向上させ市民の健康と体力の増進を図る。			◆事業概要 【指定管理者】 今泉自治会 【指定管理期間】 令和2年4月1日～令和7年3月31日 令和元年度:3,293千円(雪不足のため余剰金返還) 令和2年度:3,830千円					
◆評価指標及び実績			例年実施		単位:人			
季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するため指定管理者と連携し、経営維持に努める。			実績	H28	H29	H30	R1	R2
			利用者数	4,899	8,953	8,435	1,725	6,728
			1日平均利用者	73	118	126	86	106
◆令和2年度の実施状況 昨年は雪不足の影響から20日間のみ営業となったが、今年度は63日の営業となり、昨年と比較して大きく利用者が増加した。スキー場運営のほか、バイアスロンへの練習会場や大会会場の提供や市内・市外のスキー教室での利用など、指定管理者の努力が現れていた。								
◆自己評価 本事業については、指定管理者制度を導入しているため評価指標を設定していないが、指定管理制度で地域自治会が運営することで、様々なサービスを提供することが可能となり、地域の活性化や地域コミュニティの醸成が図られている。								
◆今後の方向性 指定管理事業者と連携し、施設利用の増加及び施設維持に継続して努める。								
◆評価委員の意見 限定された営業日の中、臨機応変に対応して運営されたことは評価できる。								

40	スポーツの振興					スポーツ振興課	
	施策名	施策の方向性 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化					
事業名	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業						決算額 300 千円
◆事業の目的 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において合宿することを誘致促進を図る。							◆事業概要 市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において宿泊施設や内陸縦貫鉄道の利用に対し、合宿等を行った団体へ補助を行う。
◆評価指標及び実績		アウトプット					
評価指標		実績	H28	H29	H30	R1	R2
■評価指標:スポーツ・文化活動等に係る合宿誘致数 団体5件 延べ500人 ※第2次北秋田市総合計画(後期)と同様の数値目標		交付額	-	300千円	300千円	579千円	300千円
		延べ人数	-	216人	238人	315人	166人
		申請件数	-	1件	1件	2件	1件
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の影響により、三井住友海上女子陸上部の1団体のみの申請となったが、元オリンピック選手の指導による陸上教室を開催し、参加者として市内小中高校生64名が参加した。 申請団体 三井住友海上女子陸上部 合宿期間10日間 延べ166名							
◆自己評価 新型コロナウイルスの影響によって予定していた合宿が中止となり、今年度は1件の合宿誘致となったが、感染症対策を取りながら、元オリンピック2名の陸上教室を開催し、参加した市内小中高校生は貴重な指導を受け、技術力の向上を図ることができた。							
◆今後の方向性 地元住民との交流が図られ、地域活性化につながることから事業の継続に努める。							
◆評価委員の意見 今後も活動団体との交流が拡大するよう支援に努められたい。							

41	スポーツの振興					スポーツ振興課	
	施策名	施策の方向性 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化					
事業名	100キロチャレンジマラソン大会補助事業					決算額 1,890 千円	
◆事業の目的 北秋田市及び秋田内陸地域の情報発信と地域住民による大会運営へのボランティア参加等の支援活動を通じた地域活性化を図る。			◆事業概要 大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図るための補助。 100キロチャレンジマラソン大会補助金 当初予算 3,000,000円				
◆評価指標及び実績		アウトプット				単位:人	
評価指標		実績	H28	H29	H30	R1	R2
・100キロの部 1,350名 ・50キロの部 350名 (定員1,700名)		参加者数	1,500	1,469	1,447	1,426	延期
・100キロチャレンジマラソン大会 実行員会が設定する最大参加者 数を評価指標とし設定した。		宿泊者数	995	841	1,042	1,014	延期
◆令和2年度の実施状況 新型コロナウイルス感染症の拡大により、第30回記念大会が延期となったが、エントリー選手への延期通知や次年度のための運営費として、1,890,000円の補助金を交付した。(当初交付額 3,000,000円)							
◆自己評価 第30回記念大会が延期となったが、運営費の一部を補助することにより、次年度へ向けた大会運営への一助となった。							
◆今後の方向性 大会の継続に向け、実行委員会・秋田県・仙北市・上小阿仁村と連携し、継続開催に努める。一方で、参加者が減少傾向にあること、ボランティアの高齢化やスタッフの固定化で後継者が育っていないことから、今後の円滑な大会運営のための支援について対策を協議する必要がある。							
◆評価委員の意見 地域に定着された大会であり、地域おこしの観点からも、大会運営に対し、継続開催に期待したい。							

42	施策名	スポーツの振興 施策の方向性 生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化					スポーツ振興課
事業名	北秋田市スキー大会等補助事業						決算額 867 千円
◆事業の目的 北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会及び県民歩くスキーのつどい開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図る。				◆事業概要 第13回北秋田市民スキー大会兼第65回北秋田学童スキー大会 第40回県民歩くスキーのつどい(中止)			
◆評価指標及び実績		アウトプット					
市民スキー大会 参加者 70人		過去5年の平均値 64.6人					
		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		交付額(円)	1,899,346	1,536,397	1,477,744	中止	866,766
		参加者数	124人	122人	77人	0人	46人
県民歩くスキーのつどい 参加者 140人		過去5年の平均値 134.8人					
		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		交付額(円)	349,790	329,985	306,276	中止	中止
		参加者数	191人	235人	248人	0人	0人
季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。評価指標として過去5年の平均参加者上回る設定とした。							
◆令和2年度の実施状況 昨年度は雪不足のため、開催中止となった市民スキー大会については、今年度は学童スキー大会と兼ねて開催した。児童の減少に伴い、参加者数が年々減少してきており、大会会場へ足を運んでもらうため、抽選会やレクリエーション要素を取り入れたイベントを新たに実施した。県民歩くスキーの集いについては、県内各地から参加者がつどうため、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。							
◆自己評価 本事業については、少子化の影響を受け、年々参加者が減少しているが、市民の冬期間の運動不足解消と健康増進のため、一人でも多く市民が参加していただくよう、今年度は新たにイベントを組み合わせた市民スキー大会が開催できた。							
◆今後の方向性 市民の冬期間の運動不足解消と健康維持のために、開催内容等を検討しながら継続開催に努める。							
◆評価委員の意見 地域特有のスポーツを推進する事業として、今後も継続実施を図られたい。							

43	スポーツの振興		スポーツ振興課																		
	施策名	施策の方向性 競技スポーツの向上																			
事業名	北秋田市スポーツ大会開催補助事業		決算額 80 千円																		
◆事業の目的		◆事業概要																			
市内で開催するスポーツ大会に要する経費に対して補助することにより、北秋田市におけるスポーツの振興、競技力の向上、地域の活性化を図る。		市内で開催する大会運営経費の一部補助を行う。 ・小学生を対象とした県北、市内、郡市大会 1日 50,000円 ・全県規模の大会 1日 80,000円 ・東北大会以上 1日 100,000円等																			
◆評価指標及び実績		アウトプット																			
・評価指標:申請件数 7件 競技大会を開催することにより、競技力の向上を図るため、過去5年の平均件数(5件)以上を評価指標とし以下のとおりを設定した。		過去5年の交付件数の平均値 5件																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交付額(円)</td> <td>438,000</td> <td>438,000</td> <td>438,000</td> <td>438,000</td> <td>80,000</td> </tr> <tr> <td>申請件数</td> <td>6件</td> <td>6件</td> <td>6件</td> <td>6件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table>		実績	H28	H29	H30	R1	R2	交付額(円)	438,000	438,000	438,000	438,000	80,000	申請件数	6件	6件	6件	6件	1件
実績	H28	H29	H30	R1	R2																
交付額(円)	438,000	438,000	438,000	438,000	80,000																
申請件数	6件	6件	6件	6件	1件																
◆令和2年度の実施状況																					
新型コロナウイルス感染症の影響により、各種大会が中止となったため、今年度は1件の市内での大会開催となった。 全県選抜少年剣道北秋田大会 80,000円																					
◆自己評価																					
新型コロナウイルス感染症の影響により、申請数が1件となったものの、地域における技術力の強化、向上を図ることができた。																					
◆今後の方向性																					
平成28年度から令和元年まで同大会が6件継続して開催されていることから、他団体の競技協会等へ事業の活用について周知を行い、事業の継続に努める。																					
◆評価委員の意見																					
今後も地域間交流が拡大するよう支援に努められたい。																					

44	施策名	スポーツの振興					スポーツ振興課
	施策の方向性 競技スポーツの向上						
事業名	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業						決算額 475 千円
◆事業の目的 北秋田市在住の小・中学校児童生徒が全県大会規模以上の大会に出場することに要する経費について、市がその一部を補助し、もって児童生徒のスポーツ振興を図る。				◆事業概要 全県大会規模以上の大会出場する児童・生徒の団体・個人（学校部活動を除く）に対しての交通費・宿泊費・参加費等の経費の一部を補助を行う。			
◆評価指標及び実績		アウトプット					
・評価指標：申請件数 45件 大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行うため、過去5年の最大件数であった平成29年度の43件以上を評価指標とし以下のとおり設定した。		過去5年の交付件数の平均値 27件					
		実績	H28	H29	H30	R1	R2
		交付額(円)	1,441,598	1,481,590	1,295,200	1,248,510	474,760
		申請件数	14件	43件	34件	34件	8件
◆令和2年度の実施状況 全県大会（4件）、東北大会（2件）、全国大会出場（2件）に対して参加費・交通費・宿泊費の一部を補助した。前年度と比較しても、新型コロナウイルス感染症の影響による大会中止により、8件のみの申請となった。 令和2年実績 ・全国大会（2件） 184千円 令和元年実績 ・全国大会（2件） 175千円 ・東北大会（2件） 68千円 ・東北大会（6件） 418千円 ・全県大会（4件） 223千円 ・全県大会（26件） 656千円							
◆自己評価 新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ大会が中止となり、昨年実績の34件には及ばない補助件数となったが、大会参加経費の負担軽減を図ることで、スポーツ活動への取組の一助となった。							
◆今後の方向性 東北・全国大会出場団体は4団体と昨年度と比べ減少したが、上位大会出場という目標を持って、スポーツ活動に取り組んでおり、目標達成のためには本事業は有効であることから事業の継続に努める。							
◆評価委員の意見 児童生徒の頑張りは地域の活力に寄与することから、継続実施を図られたい。							

令和2年度

北秋田市教育委員会点検・評価報告書

発行	令和3年10月
発行責任者	北秋田市教育委員会総務課
所在地	北秋田市花園町15番1号 北秋田市役所第二庁舎
TEL	0186-62-6616
FAX	0186-63-2678